

現代中国語における副詞の共起制限について
—焦点、アスペクト、モダリティの関連を通して

お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科

石井 友美

平成28年 3月23日

目次

1. 序論 -----	1
1. 0 本論文の研究意義 -----	1
1. 1 本論文における副詞 -----	6
2. 副詞と焦点 -----	7
2. 0 本章の内容 -----	7
2. 1 焦点の定義と先行研究 -----	8
2. 2 副詞の意味対象と焦点 -----	9
2. 3 疑問文における意味指向副詞 -----	11
2. 4 諾否疑問文と正反疑問文の焦点 -----	15
2. 4. 1 諾否疑問文の形式的特徴 -----	15
2. 4. 2 諾否疑問文の焦点 -----	18
2. 4. 3 正反疑問文の形式的特徴 -----	20
2. 4. 4 正反疑問文の焦点 -----	28
2. 5 意味指向副詞と疑問文の共起制限 -----	30
2. 6 終わりに -----	34
3. 副詞とアスペクト -----	35
3. 0 本章の内容 -----	35
3. 1 アスペクトの定義 -----	36
3. 2 アスペクト標記と副詞 -----	39
3. 3 アスペクトと注視点 -----	44
3. 4 「将然のアスペクト」 -----	47
3. 4. 1 「将然のアスペクト」と注視点 -----	47
3. 4. 1. 1 “要～了”の構造 -----	47
3. 4. 1. 2 “快”“就” -----	48
3. 4. 1. 3 “就要～了”“快要～了”と注視点 -----	52
3. 5 アスペクト副詞と将然のアスペクト -----	54
3. 5. 1 “已经” -----	55
3. 5. 2 “马上”、“立刻”、“眼看” -----	58
3. 6 終わりに -----	60

4. 副詞とモダリティ	61
4. 0 本章の内容	61
4. 1 モダリティの定義と分類	62
4. 1. 1 モダリティの定義	62
4. 1. 2 モダリティの分類	63
4. 2 モダリティ副詞	70
4. 3 モダリティと助動詞	75
4. 3. 1 “愿意”と“想”の性質の違い	76
4. 3. 1. 1 “愿意”と意志表現	76
4. 3. 1. 2 “想”と意志表現	77
4. 3. 1. 3 “愿意”と「未定意志」	79
4. 4 モダリティ副詞と助動詞	85
4. 5 終わりに	87
5. 総括	89
出典用例	96
参考文献	96

グロス一覧

- A：疑問文の文末について語気を整える
BA：文末に用いられる疑問標識となる助詞
BU：否定副詞
DE：動詞の後ろに置き、その動作の状態を表す語を導く
DEI：義務を表す。～しなければならない
ER：接続を表す助詞
GE：人や物を数える時に用いられる量詞
GUO：経験、完了を表す
HUI：可能性を表す助動詞
LA：話し手の断定、決意を表す
LAIZHE：完了を表す
LAI：動作の趨勢を表す
LE：動作や状態の発生を表す助詞
MA：文末に用いられる疑問標識となる助詞
MEI：否定副詞
NE：疑問文の文末について語気を整える
O：感嘆の語気を表す
SHI：繫辞
SHI～DE：“～”に来るフレーズが既に行われたことを強調する。
YAO：これから起こることを表す助動詞
YI：後続する動作がすぐに行われたことを表す。
YIN～ER・・・：～が原因となり・・・となる
YICHANG：1度、1回などの回数を表す
ZE：前後文の因果関係を表わす
ZHIDE：～する価値がある

1. 序論

1. 0 本論文の研究意義

中国語は孤立語であるため、単語が正しい語順で並べられておれば、文の意味がおのずと決まるように思われやすい。だが、修飾-被修飾の関係においては、修飾するものと修飾されるもの間に意味的な相性のよし悪しが見られ、文法性の判断に影響を与えることも少なくない。この修飾-被修飾の関係においてみられる語の文法的な相性を、本論文では共起制限と呼び、主に副詞とその修飾を受ける述語との間にみられる共起制限を取り上げて論じる。例えば、先行研究では以下のような共起制限がすでに指摘されている。以下の例を参照されたい。

(1)*这个 问题 我们 已经 研究研究 过 了。 (张言军 2008:37)

この 問題 私たち すでに 研究する GUO LE

(2)*这个 问题 我们 曾经 讨论讨论。 (张言军 2008:37)

この 問題 私たち かつて 討論する

(3)学海 给 秦妈妈 一说, 马上 看看 自己 的 手。 (张言军 2008:38)

学海 に 秦さん 言う すぐに 見る 自分 の 手

[学海は秦さんに言う。すぐに自分の手を見るようにと。]

上記の例は張言軍(2008)が挙げた時間を表す副詞と動詞の重畳形式の共起制限である。(1)では副詞“已经”と動詞の重畳形式“研究研究”、(2)では副詞“曾经”と動詞の重畳形式“讨论讨论”の間に共起制限が生まれ、非文となっている。以上の例から副詞“已经”、“曾经”と動詞の重畳形式には共起制限が存在することがわかる。これは動詞の重畳形式の持つ意味と副詞の違いによって引き起こされるものである。時間副詞“已经”、“曾经”は後続する動作が完了していることを表すものである。このような意味は動詞の重畳形式の動作が短時間で行われることを表す意味と相性が悪い。(3)では動詞の重畳形式と時間副詞“马上”が共起した例である。この例は(1)(2)のように共起制限が生まれることはない。これは副詞“马上”が“已经”、“曾经”とは異なり、動作の完了を表すのではなく、動作が短時間に行われることを表すため、動詞の重畳形式の意味と矛盾が生じないためである。また次の例を参照されたい。

(4)*这本书 比 那本书 很 难 懂。 (陆俭明, 马真 1999:81)

この本 より あの本 とても 難しい 理解する

(5) 这 本 书 比 那 本 书 更 有 趣。 (陆俭明, 马真 1999:82)

この 冊 本 より あの 冊 本 さらに 面白い

[この本はあの本よりさらに面白い。]

上記の例は陆俭明, 马真(1999)が挙げた程度副詞と比較級の共起制限である。(4)において程度副詞“很”は“比~”からなる比較文と共起できないことがわかる。(5)では程度副詞“更”と比較文が共起することが可能である。陆俭明, 马真(1999)はこのことについて王力(1947)が指摘する“绝对程度副词”(絶対程度副詞)と“相对程度副词”(相対程度副詞)を用いて説明している。“绝对程度副词”(絶対程度副詞)とはある対象を別の対象と比較することなく程度の高さを表すものであり、“相对程度副词”(相対程度副詞)とはある対象を別の対象と比較した結果、程度の高さを表すものである。“很”は“绝对程度副词”(絶対程度副詞)に属し、対象の程度の高さを比較することなく表すため、上記のように比較文に用いることはできない。しかし“更”は他と比較することで程度の高さを表すため、上記のように比較文に用いることが可能である。以上からわかるように“很”、“更”は同じく程度の高さを表す副詞であるが、意味が異なるため、比較文と共起すると異なった様相を見せる。さらに以下の先行研究における共起制限を参照されたい。

(6)a. 我 刚才 在街上 看见 小李 来着。 (龚千炎 1995:87)

私 たった今 街で 見る 李さん LAIZHE

[私はたった今、街で李さんを見た。]

b. 刚刚 老何 找 你 来着, 你 到 哪里 去 了? (龚千炎 1995:87)

たった今 何さん 探す あなた LAIZHE あなた まで どこ 行く LE

[たった今、何さんはあなたを探していた。あなたはどこに行っていたの?]

(7)a. *我 刚才 在 街上 看见 过 小李。 (龚千炎 1995:87)

私 たった今 で 街 見る GUO 李さん

b. *刚刚 老何 找 过 你, 你 到 哪里 去 了? (龚千炎 1995:87)

たった今 何さん 探す GUO あなた あなた まで どこ 行く LE

上記は副詞“刚才”、“刚刚”と完了を表す“过”、“来着”の共起制限が表れた例である。上記の例からわかるように“来着”は“刚才”、“刚刚”と共起可能であるが、“过”は共起することは

できない。これは“来着”、“过”と“刚才”、“刚刚”の特徴が相容れないために生じる共起制限である。“来着”と“过”は共に過去の経験を表すが、“过”の方が遠い出来事の経験を表し、“来着”の方がより近い出来事の経験を表す。“刚才”、“刚刚”はある事象の発生時と達成時が短いことを表す副詞である。このような副詞の意味は近い出来事の経験を表す“来着”とは矛盾が生じることはないが、遠い出来事の経験を表す“过”とは相容れない。张亚军(2002:239)は動作の進行を表す“正”、“正在”、“在”と副詞“一直”の共起制限を指摘している。以下の例を参照されたい。

(8)a.他 觉得 他 家里 的 电话 就 一直 在 被 人 窃听 或 录音。

彼 思う 彼 家 の 電話 JIU ずっと ている よって 人 盗聴 か 録音

(张亚军 2002:239)

[彼は家の電話がずっと誰かに盗聴か録音されていると思っている。]

b. 在 拐弯 前, 我 回头 看见 她 还 在 向 我们 挥手 告别。

で 曲がる 前 私 振り返る 見る 彼女 まだ ZAI 向かって 私たち 手を振る 別れを告げる

(张亚军 2002:239)

[曲がる前に私が振り返ると、彼女はまだ私たちに向かって手を振り、別れを告げていた。]

(9)a.*他 觉得 他 家里 的 电话 就 一直 正 被 人 窃听 或 录音。

彼 思う 彼 家 の 電話 JIU ずっと ZHENG よって 人 盗聴 か 録音

b.*在 拐弯 前, 我 回头 看见 她 还 正 向 我们 挥手 告别。

で 曲がる 前 私 振り返る 見る 彼女 まだ ZHENG 向かって私たち 手を振る 別れを告げる

(10)a. *他 觉得 他 家里 的 电话 就 一直 正在 被 人 窃听 或 录音。

彼 思う 彼 家 の 電話 JIU ずっと ZHENGZAI よって 人 盗聴 か 録音

b. *在 拐弯 前, 我 回头 看见 她 还 正在 向 我们 挥手 告别。

で 曲がる 前 私 振り返る 見る 彼女 まだ ZHENGZAI 向かって私たち 手を振る 別れを告げる

上記の例からわかるように副詞“一直”、“还”は動作の進行を表す“在”と共起することはできるが、“正”、“正在”とは共起することができない。これは副詞“一直”、“还”と“正”、“正在”、“在”の性質により引き起こされるものである。张亚军(2002:239)は“正”、“正在”、“在”

について“正”、“正在”は“重于表达动作行为与参照时点的一致性”「動作もしくは行動と参照点の一致に重きを置く表現。」としている。つまり動作の進行を表し、その動作が参照点と同じ時に行われることに重点を置く表現である。このような意味は状態の持続を表す副詞“一直”、“还”とは相性が悪い。さらに“在”については“重于表达动作行为或状态的过程性”「行動もしくは状態の過程に重きを置く表現。」と説明している。つまり動作の進行の持続に重点が置かれた表現である。このような意味は持続を表す副詞“一直”、“还”とは矛盾が生じることない。

以上の先行研究で取り上げられた共起制限は、修飾する要素と修飾される要素の間に意味的な矛盾が比較的簡単に説明される。だが、共起制限の中には、一見したところなぜ共起が制限されるのか、説明が難しいものもある。例えば、以下の例文のペアでは、同一の副詞が一方の構文では容認され、もう一方では容認されず、その違いは説明が難しい。(11)では、副詞“也”がともに疑問文に現れているが一方のみ容認される。(12)(13)では、副詞“已经”、“马上”がともに近未来を表すアスペクトを伴う述語を修飾しているが、やはり一方のみが容認される。(14)(15)は副詞“太”、“好”がともに願望を表す助動詞を含む述語を修飾しているが、これも一方のみ容認される。

(11)a. 你 也 去 吗?

あなた も 行く MA

[あなたは行きますか?]

b.*你 也 去 不 去?

あなた も 行く BU 行く

[あなたは行きますか?]

(12)a. 我 已经 快要 出国 了。

わたし もう まもなく 出国する LE

[私はもうまもなく出国する。]

b.*我 已经 就要 出国 了。

わたし もう まもなく 出国する LE

[私はもうまもなく出国する。]

(13)a. 他 马上 就要 回国 了。

彼 すぐ まもなく 帰国する LE

[私はすぐに帰国する。]

b. *他 马上 快要 回国 了。

彼 すぐ まもなく 帰国する LE

[私はすぐに帰国する。]

(14)a. 我 太 想 吃。

私 とても たい 食べる

[私はとても食べたい。]

b. ?我 太 愿意 吃。

私 とても たい 食べる

[私はとても食べたい。]

(15)a. 我 好 想 看。

私 とても たい 見る

[私はとても見たい。]

b. *我 好 愿意 看。

私 とても たい 見る

[私はとても見たい。]

本論文では、これらの副詞の持つ共起制限は、以下のように説明されるのではないかと提案する。上記の(11)では副詞“也”が正反疑問文と諾否疑問文に共起した例である。(11)a は文末に“吗”を用いる諾否疑問文である。上記からわかるように副詞“也”と共起可能である。(11)b は述語の肯定と否定を重ねる正反疑問文である。この疑問文は副詞“也”とは共起できない。これは副詞と疑問文の焦点の特徴が原因となり、引き起こされるものである。(12)(13)は副詞“已经”、“马上”がアスペクト成分である“快要～了”、“就要～了”と共起した例である。(12)からわかるように“已经”は“快要～了”と共起可能であるが、“就要～了”は共起することができない。また(13)からもわかるように“马上”は“就要～了”と共起可能であるが、“快要～了”とは共起できない。これは副詞とアスペクト成分の特徴が原因となり、引き起こされる。(14)(15)は副詞“太”、“好”がモダリティ成分“想”、“愿意”と共起した例である。“太”は“想”には共起できるが、“愿意”とは共起が難しい。また“好”は“想”と共起できるが、“愿意”

とは共起することができない。これは副詞とモダリティ成分の特徴が原因となるものである。

本論文では、これらの副詞が、よく似た意味を表す述語の修飾において、なぜ容認度の違いを生むのかを、焦点、アスペクト、モダリティの観点から詳しく分析することで説明を試みる。前述したように、先行研究においても副詞とそれが修飾する述語との共起制限は指摘されているが、本論文では、(11)～(15)の副詞について、副詞自身の持つ焦点、アスペクト、モダリティ上の特性、および副詞の修飾する述語の焦点、アスペクト、モダリティの特性を明らかにした上での両者の共起状況を説明する。

1. 1 本論文における副詞

副詞と焦点、アスペクト、モダリティの共起制限を分析するにあたり、本節では本論文で扱う副詞について説明していきたい。現代中国語において副詞とは“虚詞”であること、そして“状語”であることが定義として挙げられる。“虚詞”とは単独で語彙的意味を持つことがなく、また単独で主語、目的語、述語などの文法成分になれないものである。“状語”とは文中で動詞や形容詞などの用言を修飾する機能を持つ成分のことである。この副詞の定義に基づき王力(1984)は副詞を“程度副詞”(程度副詞)、“范围副詞”(範囲副詞)、“时间副詞”(時間副詞)に分類し、“最”、“都”、“已”などの副詞を挙げている。また朱德熙(1982)は“程度副詞”(程度副詞)、“范围副詞”(範囲副詞)、“时间副詞”(時間副詞)、“否定副詞”(否定副詞)に分類し、“常常”、“马上”、“都”、“很”、“不”などの副詞を挙げている。さらに副詞の詳細な分析を行っている张谊生(2000)は副詞を“描摹性副詞”(描写性副詞)、“限制性副詞”(制限性副詞)、“评注性副詞”(評価性副詞)の3つに分類し、“简直”、“却”、“正”、“通常”、“都”、“很”、“不”、“一起”、“再”、“全力”など多くの副詞を挙げている。本論文では先行研究で指摘される多くの副詞の中でも焦点、アスペクト、モダリティを表す、もしくはこれらと関連のある副詞を扱う。以下が本論文で扱う副詞である。

表1 考察対象の副詞

意味指向副詞	不, 都, 净, 只, 常常, 也, 最,
アスペクト副詞	马上, 立刻, 眼看, 已经
モダリティ副詞	好, 太

意味指向副詞は2章において焦点との関係、アスペクト副詞は3章において将然のアスペクトの関係、モダリティ副詞は4章で意志のモダリティの関係の分析で詳しく説明していく。

2. 副詞と焦点

2. 0 本章の内容

本章では副詞と疑問文の焦点との共起制限を考察する。

(1) 你 去 吗?

あなた 行く MA

[あなたは行きますか?]

(2) 你 去 不 去?

あなた 行く BU 行く

[あなたは行きますか?]

上記の(1)は諾否疑問文、(2)は正反疑問文である。両者は同じく「行く」ことの是非、すなわち行くかどうかを尋ねる疑問文である。このように諾否疑問文と正反疑問文は命題の是非を尋ねるといって同じ性質を持つと言える。しかし以下のように副詞と共起した場合に異なった様相を見せる。以下、副詞に棒線を付す。

(3)a. 你们 都 来 吗?

あなたたち 皆 来る MA

[あなたたちは皆、来ますか?]

b. *你们 都 来 不 来?

あなたたち 皆 来る BU 来る

(4)a. 你 一生 只 爱 一个人 吗?

あなた 一生 だけ 愛する 一人 MA

[あなたは一生一人だけを愛しますか?]

b. *你 一生 只 爱 不 爱 一个人?

あなた 一生 だけ 愛する BU 愛する 一人

(5)a. 你 最 喜欢 我 的 歌儿 吗?

あなた 最も 好き 私 の 歌 MA

[あなたは私の歌が最も好きですか?]

b.* 你 最 喜 不 喜欢 我 的 歌儿?

あなた 最も 好き BU 好き 私 の 歌

(6)a. 你 常常 看 电影 吗?

あなた よく 見る 映画 MA

[あなたはよく映画を見ますか?]

b.* 你 常常 看 不 看 电影?

あなた よく 見る BU 見る 映画

以上から副詞と共起することにより、正反疑問文の方がより多くの制約を受けることがわかる。諾否疑問文と正反疑問文は命題の是非を尋ねるという点では同じ性質を持つと言えるが、上記のような共起状況の差異から両疑問文には何かしらの性質上の差異があると考えられる。本章ではこのような副詞が諾否疑問文と正反疑問文に共起することで生じる差異を両疑問文の持つ焦点の特徴と関連させて探っていく。

2. 1 焦点の定義と先行研究

本節では本章における焦点とはどのようなものか説明していきたい。焦点とは話し手が文中において最も強調する部分のことである。呂叔湘(2002)は焦点のこの強調するという作用に着目し、否定文、疑問文に存在する焦点について指摘をしている。呂叔湘(2002)は焦点が文中における最も強調する部分であるならば、疑問文はその主たる機能は何かを尋ねることにあるため、最も強調される部分は話し手が尋ねようとするところにあると指摘している。また否定文の主たる機能は否定することであり、最も強調される部分は話し手が否定をする部分であるとも指摘している。このように焦点の定義を話し手が最も強調する部分とし、文機能における焦点を考察すると疑問文は話し手が何を尋ねようとするかの何、否定文では話し手が何を否定するかの何に焦点が置かれる。これは焦点の機能的な特徴を指摘している。このような焦点の機能における指摘以外にも張伯江、方梅(1994)、劉丹青、徐烈炯(1998)は焦点を文中で最も強調される部分とそうではない部分との関係を取り上げ、焦点の性質を分類している。張伯江、方梅(1994)は文中で最も強調される部分を“焦点”、それ以外の部分を“预设”とし、“常规焦点”(自然焦点)と“对比焦点”(对比焦点)に分類している。“常规焦点”(自然焦点)は文末に置かれる新情報を焦点とするものであり、“对比焦点”(对比焦点)は焦点以外の要素である

文脈や背景、つまり“预设”と比較し、強調されることによって表す焦点と指摘している。刘丹青、徐烈炯(1998)は強調されていることを[突出]、“预设”と比較されていることを[对比]とし、“自然焦点”(自然焦点)、“对比焦点”(对比焦点)、“话题焦点”(话题焦点)に分類している。徐烈炯(2001)、袁毓林(2012)は意味論の面から焦点を扱い、“信息焦点”(情報焦点)、“语义焦点”(意味焦点)を挙げている。以上が先行研究で指摘されている焦点である。本章では副詞が疑問文の焦点に与える影響を探るものであるため、疑問文の焦点、つまり文機能における焦点に着目していきたい。次節では副詞と焦点の関係について見ていく。

2. 2 副詞の意味対象と焦点

副詞は文中の焦点に影響を与える場合がある。その場合、副詞の意味対象が焦点と深い関わりを持つことになる。以下、詳しく見ていく。尚、副詞には棒線、副詞の作用が働く箇所に波線を付す。

(7) A: 当时 父亲和母亲 会 同意 吗?

その時 両親 HUI 同意する MA

[その時、両親は賛成したのですか]

B: 他们 都 同意 了。

彼ら みな 賛成する LE

[彼らはみな賛成しました。]

上記の例ではAは“父亲”(父)と“母亲”(母)が“同意”(賛成する)しているかどうかを尋ねる文である。これに対してBは父と母の二人とも賛成していることを表している。Bにおいて最も強調される部分、つまり焦点はAの問いの答えとなる“父亲”(父)と“母亲”(母)である。この例において副詞“都”の作用対象は焦点の“他们”にある。また以下の例を参照されたい。

(8) A: 冬少, 我 刚才 忘 了 告 诉 你, 那 酒 的 后 劲 很 强, 和 一 般 洋 酒 不 同,

冬少 私 さっき 忘れる LE 教える あなた その酒 の 効果 強い と 一般の洋酒 異なる

就算 再 怎么 海量的人, 喝 三杯以上 保证 倒。

たとえでも どんなに 酒が強い人 飲む 三杯以上 保証する倒れる

[冬少、さっき教えるのを忘れた。その酒の効果は強い。一般の洋酒と異なる。たとえどんなに酒が強い人でも三杯以上飲んだら倒れると保証する。]

B: 你 怎么 不早说, 他 都 喝 半瓶 了! 《少东的幸福新娘》

あなた どうして 早く言わない 彼 全部 飲む 半分 LE

[どうして早く言わないの。彼は半分全部、飲んでしまった!]

上記の例ではAの発話からBの“他都喝半瓶了”の焦点は“半瓶”にあることがわかる。またこの文の“都”の意味作用は後方の“半瓶”にある。上記で挙げた(7)と異なり、この文において“都”は主語“他”に作用するのではなく、後方の“半瓶”に作用する。以上から副詞の作用対象は焦点に向かい、文脈により焦点が異なると、副詞の作用対象もそれに伴い変わるといえることがわかる。このような機能を持つ副詞は“都”以外にも以下のようなものがある。

(9)a. 他 不 去 美国 留学。他 去 英国。

彼 BU 行く アメリカ 留学する 彼 行く イギリス

[彼はアメリカには留学に行かない。彼はイギリスに行く。]

b. 他 不 去 美国 留学。他 去 旅游。

彼 BU 行く アメリカ 留学する 彼 行く 旅行する

[彼はアメリカへ留学はしない。彼は旅行に行く。]

(10) 小军 很勇敢, 他 常常 在外面 与 人 打架。

小軍 勇敢である 彼 よく 外で と 人 喧嘩する

[小軍は勇敢だ。彼はよく外で人と喧嘩する。]

(11)a. 我 学习 汉语。他 也 学习 汉语。

私 学ぶ 中国語 彼 も 学ぶ 中国語

[私は中国語を学ぶ。彼も中国語を学ぶ。]

b. 我 发挥 了 自己的 棋艺 水平, 也 学习 了 日本 棋艺 的 优良 技艺。

私 発揮する LE 自分 の チェス 技術 も 学ぶ LE 日本 チェスの 良い ところ

《杏坛忆旧》

[私は自分のチェスの技術を発揮し、日本のチェスの良いところも学んだ。]

(12)a. 在 几个 同学中, 他 最 聪明。

で 何人か クラスメイトの中 彼 最も 賢い

[何人かのクラスメイトの中で彼が最も賢い。]

b. 在 异国 菜肴中, 他 最 喜欢 中国菜
で 異国 料理の中 彼 最も 好き 中華料理

[異国の料理の中で彼は最も中華料理が好きだ。]

(13) A: 来 一盘 酸辣黄瓜, 这个 开胃。

さあ 一皿 キュウリのピリ辛漬け これ 食欲が増す

[さあ、キュウリのピリ辛漬けですよ。これは食欲が増しますよ。]

B: 对不起, 我们 只 吃 火锅, 不要 凉菜。 (北大)

ごめんなさい 私たち だけ 食べる 火鍋 いらぬ オードブル

[ごめんなさい。私たちは火鍋だけを食べます。オードブルはいりません。]

上記(9)において副詞“不”が用いられている。文脈から a の焦点は“美国”、b の焦点は“留学”にある。そして“不”の作用対象はそれぞれの焦点である。また(10)(11)(12)(13)も副詞“常常”、“也”、“最”、“只”はそれぞれの焦点を作用対象としている。以上のような作用対象が焦点となる副詞を本章では意味指向副詞と呼びたい。以上、説明してきた作用対象の方向は副詞により異なった様相を見せる。例えば上記の例において“常常”は自身の後方のみを“语义指向”の対象とするが、“不”、“也”、“最”は文脈や共起する文法構造によって意味対象をそれら自身の前方か後方か変化させることができる。次節では意味指向副詞の性質が疑問文の焦点にどのような影響を与えるのか見ていきたい。

2. 3 疑問文における意味指向副詞

本節では意味指向副詞が疑問文においてどのような影響を与えるのか見ていきたい。まず最初に疑問文の焦点について説明していきたい。前述したように疑問文の焦点は呂叔湘(2002)が何を尋ねるかの何にあると指摘している。疑問文の焦点については尹洪波(2008:92)も指摘しており、“疑问句的主要功能是探寻未知世界, 获取信息; 焦点本质上是说话人最想让听话人注意的部分。”「疑問文の主要機能は未知の部分への探求であり、その部分に対して情報を得ることである; 焦点の本質は話し手が最も聞き手に注意を引かせたい部分である。」と説明している。以上の先行研究から疑問文の焦点とは話し手が尋ねようとする部分のことであるというのがわかる。以下の例を参照されたい。

(14) A: 佐西莫夫 也 要 去。 你 去 吗?

ゾシーモフ も YAO 行く あなた 行く MA

[ゾシーモフも行きます。あなたも行きますか?]

B: 不 去。

BU 行く

[行かない。]

A: 你 胡说! 《罪》

あなた でたらめを言う

[でたらめを言うな!]

(15) 欧阳情 道: “今天 晚上 你 去 不 去?”

欧陽情 言う 今日 夜 あなた 行く BU 行く

[欧阳情は言う:「今夜、あなたは行きますか?」]

陆小凤 道: “当然 要 去。” (北大)

陸小凤 言う 当然 YAO 行く

[陸小凤は言う「当然、行きます。』]

(16)A: 马 已经 备 了 好久, 你 到底 去 还是 不 去?

馬 既に 準備する LE 長い間 あなた 一体 行く やはり BU 行く

[馬は既に長い間、準備しています。あなたは一体行くのですか、いかないのですか?]

B: 不 去! 我 说 过 好几遍 了, 你 别 再 来 烦 我! (北大)

BU 行く 私 言う GUO 何回 LE あなた するな また 来る 煩わしい 私

[行かない! 私は何回も言った。また私を煩わせるな!]

(17) A: 那 你 去 哪儿?

では あなた 行く どこ

[ではあなたはどこに行くの?]

B: 医院! (北大)

病院

[病院!]

上記の例は現代中国語の4つの疑問文である。(14)は諾否疑問文、(15)は正反疑問文、(16)は選択疑問文、(17)は疑問詞疑問文である。上記の例の回答からそれぞれの疑問文の話し手が尋ねようとするところ、つまり焦点がわかる。(14)では“你去吗?”という問いに対して“不去。”

と答えていることから、焦点は“去”かどうかにあることがわかる。(15)(16)も“当然要去。”、“不去!”と答えているところから焦点は“去”かどうかであることがわかる。また(17)では“那你去哪儿?”という問いに対して“医院!”という場所を答えていることから、焦点は場所を尋ねる“哪儿?”にあるということがわかる。次にこのような疑問文の焦点は意味指向副詞が加わるとどのようなようになるのか見ていく。意味指向副詞は前節で説明した平叙文の場合と同様に疑問文の焦点を意味対象とし、さらに副詞自身も焦点となる。望月(1994)は意味指向副詞“也”、“都”が用いられた疑問文における焦点の位置を指摘している。

(18) 你也 来 吗? (望月 1994:236)

あなたも 来る MA

[あなたも来ますか?]

(19) 他们都 来 吗? (望月 1994:240)

彼ら皆 来る MA

[彼らは皆、来ますか?]

上記の(18)において尋ねられているのは“来”という動作がなされるかどうかではなく、“来”という動作を“你”も行うかどうかである。つまり(18)において焦点は“你也”にある。また(19)でも“来”という動作がなされるかどうかではなく、“来”という動作を“他们”全員が行うかどうかを尋ねている。つまり焦点は“他们都”にある。以上の望月氏の指摘から“也”、“都”が用いられた疑問文における焦点は副詞自身とその意味対象にあることがわかる。望月氏は本章で意味指向副詞として扱う副詞の中で“也”、“都”の疑問文におけるふるまいを指摘したが、それ以外の意味指向副詞を扱っていない。以下では“也”、“都”以外の意味指向副詞が疑問文に用いられると疑問文の焦点にどのような変化をもたらすのか見ていく。

(20) 你这个人 多悠闲自在, 净 是 这样 打发 日子 吗? 《雪国》

あなた のんびり ずっと SHI このように 無駄に過ごす 日々 MA

[あなたはのんびりとずっとこのように日々を無駄に過ごしているの?]

(21)A: 北京的春天 最 美丽 吗?

北京の春 最も 美しい MA

[北京の春が最も美しいですか?]

B: 不, 北京的秋天 最 美丽。 (北大)

BU 北京の秋 最も 美しい

[いいえ。北京の秋が最も美しいです。]

(22)A: 你 只 吃 水果 吗?

あなた だけ 食べる 果物 MA

[あなたは果物だけを食べているのですか?]

B: 我 没有 食欲。我 不 想 吃 别的東西。 (北大)

私 ない 食欲 私 BU たい 食べる 他の物

[食欲はない。私は他の物を食べたくない。]

(23)A: 你 常常 撞 树 吗?

あなた よく ぶつかる 木 MA

[あなたはよく木にぶつかるのですか?]

B: 其实 也 没有 很 常 啦, 我 比较 常 撞 到 的 是 墙壁。《三》

実は も ない とても よく LA 私 比較的 よく ぶつかる の SHI 壁

[実はそんなによくぶつからないんだ。私が比較的よくぶつかるのは壁だ。]

(20)は副詞“淨”が用いられた疑問文である。文中の“这样”は前文にある“悠闲自在”のことであることから、話し手が“这样打发日子”であるかどうかを尋ねているのではなく、そのように日々をずっと過ごしているのかを尋ねている。ゆえに焦点は副詞“淨”とその意味対象である“是这样打发日子”である。次に(21)は副詞“最”が用いられた例である。この疑問文における焦点は副詞“最”とその意味対象の“北京的春天”である。それはこの疑問文に対する回答からわかる。“北京的春天最美丽吗?”という問いに対してBが否定し、最も美しい季節は秋であると訂正していることから、Aの発する疑問文の焦点は副詞“最”とその意味対象である“北京的春天最”にあることがわかる。次の(22)(23)も焦点は副詞“只”、“常常”とこれらの意味対象の“吃水果”、“撞树”である。これはこれら疑問文のBの回答を見ればわかる。以上からわかるように意味指向副詞は疑問文において自身も焦点になるということがわかる。このような疑問文における意味指向副詞のふるまいが諾否疑問文と正反疑問文との共起状況の差異を引き起こす。以下、諾否疑問文と正反疑問文の形式と焦点の特徴を考察し、意味指向副詞との共起に差異を引き起こす原因を探っていきたい。

2. 4 諾否疑問文と正反疑問文の焦点

本節では諾否疑問文と正反疑問文の形式的な特徴と焦点について見ていく。

2. 4. 1. 諾否疑問文の形式的特徴

本節では諾否疑問文の焦点の特徴を説明する前にこの疑問文の形式的な特徴を簡単に説明していきたい。諾否疑問文の形式的な特徴を疑問文を疑問文として成り立たせる要素“疑問标记”（疑問標識）を中心に説明していく。諾否疑問文の“疑問标记”（疑問標識）として挙げられるのは上昇イントネーションと語気助詞である。朱德熙(1982:202)は諾否疑問文について“只要把相应的陈述句的语调换成疑问语调, 就变成了是非问句。”「陳述文の語調を疑問文の語調に変えさすれば、諾否疑問文となる。」と指摘していることから“疑問标记”（疑問標識）を上昇イントネーションとしていることがわかる。また朱德熙(1982)は上記のような上昇イントネーションに文末助詞を伴うことができると指摘している。

(24) 下 雨 了。 → 下 雨 了 (啊)? ↗ (朱德熙 1982:202)

降る 雨 LE 降る 雨 LE A
[雨が降った] [雨が降りましたか?]

(25)a. 快 开 车 了。 → 快 开 车 了(吧)? ↗

KUAI 発車する LE KUAI 発車する LE BA
[まもなく発車する] [まもなく発車しますか?]

b. 今天 星期三。 → 今天 星期三 吗? ↗ (朱德熙 1982:202)

今日 水曜日 今日 水曜日 MA
[今日は水曜日です。] [今日は水曜日ですか?]

上記の括弧で括られている語気助詞をそれぞれの疑問文から削除しても上記の例は疑問文として成り立つ。それは上記の例がみな上昇イントネーションを“疑問标记”（疑問標識）としているためである。さらに劉月華（1988）では疑問文を表すことができない平坦イントネーションや下降イントネーションも語気助詞を伴うことで疑問文として機能すると指摘している。これはつまり語気助詞も文に疑問の意味を与える“疑問标记”であるということである。また“疑問标记”として機能する語気助詞として陆俭明（1984）は“吧”、“吗”であると指摘している。陆俭明（1984）は“吧”、“吗”が“疑問标记”であり、その他のよく“疑問标记”としてあげられる“呢”、“啊”は“疑問标记”ではないと指摘している。このことについて以下、陆俭明

(1984) が挙げた例を用いながら説明していきたい。

(26) A: 后来 怎么样 呢? 四婶 还 问。

後 どのように NE 四番目の兄嫁 さらに 尋ねる

〔後はどのようになったの?〕兄嫁はさらに尋ねた。〕

B: 听说 第二天 也 没有 起来。她 抬起眼来 说。

らしい 二日目 も ない 起きる 彼女 目を上げる 言う

〔二日目も起きて来ないらしい。彼女は目を上げて言った。〕

A: 后来呢?

後 NE

〔後は?〕

B: 后来? 一 起来 了。她 到 年底 就 生 了一个 孩子。(陆俭明 1984:41)

後 起きる LE 彼女 至る 年末 JIU 産む LE 一人 子ども

〔後は? 置きた。彼女は年末に子どもを一人産んだ。〕

まず“呢”が用いられた諾否疑問文を見ていきたい。上記の“后来呢?”は上昇イントネーションを“疑問标记”(疑問標識)とする諾否疑問文のように見えるが、その後の“后来?”と比べるとその類には属さないことがわかる。“后来呢?”は“后来怎么样呢”〔その後はどうになったか?〕という意味であり、疑問詞疑問文の簡略化した形であるが、“后来?”は“你是问后来怎么样吗?”という意味になる。もし仮に“后来呢?”が上昇イントネーションを持つ諾否疑問文ならば後続する“后来?”と同じ意味である“你是问后来怎么样吗”〔あなたはその後はどうなったか聞いているのか。〕にならないといけな。つまり“后来呢?”における“呢”は諾否疑問文において“疑問标记”(疑問標識)にはならない。次に“啊”を見ていきたい。

(27) 晌午 没 吃 干粮, 不 饿 啊? ↗ (陆俭明 1984:39)

午後 MEI 食べる 乾飯 BU お腹が空く A

〔午後、乾飯を食べていないけど、お腹空かないの?〕

(28) 就是 走, 我 也 得 跟 班上 说 一声 啊。↘ (陆俭明 1984:39)

なら 行く 私 も DEI に 職場 かける 一声 A

〔私も行くなら職場に一声かけるよ。〕

上記の(27)は“啊”を伴った上昇イントネーションの疑問文である。しかし“啊”はこの文に疑問の意味を与えていない。それは次の(28)の例からわかる。(28)の例は陳述文である。この文のイントネーションは下降である。上記の例のように“啊”は下降イントネーションのものに加えられてもその文を疑問文にすることはない。一方、“疑问标记”(疑問標識)とされる“吧”、“吗”は下降イントネーションの文に用いられてもその文は疑問文となる。

(29) 你 去 吗? ↘
あなた 行く MA
[あなたは行きますか?]

(30) 你 去 吧? ↘
あなた 行く BA
[あなたは行きますか?]

上記(29)では下降イントネーションに文末助詞“吗”が用いられた例である。この文は下降イントネーションであるが、“吗”が“疑问标记”(疑問標識)となるため疑問文として機能する。また上記(30)の“吧”が用いられた例は命令文もしくは推測文としても解釈できるが、文脈によっては下降イントネーションの疑問文とも解釈できる。これはつまり“啊”は疑問文において“疑问标记”(疑問標識)にはならないため、“啊”が用いられた下降イントネーションの文は疑問文として機能しないが、“吧”、“吗”は“疑问标记”(疑問標識)なるため、下降イントネーションの文に用いられても疑問文として機能するということである。本章では以上の先行研究に基づき諾否疑問文の“疑问标记”(疑問標識)となる語気助詞を“吧”、“吗”とする。以上をまとめると諾否疑問文には以下の種類があることがわかる。

(31) I型: 你去? ↗
II型: 你去吗(吧)? ↗
III型: 你去吗(吧)? →
IV型: 你去吗(吧)? ↘

上記のI型は上昇イントネーションが“疑问标记”(疑問標識)として機能するものである。II型は上昇イントネーションと語気助詞が“疑问标记”(疑問標識)として機能するものである。III型は平坦イントネーションであるため、語気助詞が“疑问标记”(疑問標識)を担っている。IV型は下降イントネーションであることから、“疑问标记”(疑問標識)は語気助詞であること

がわかる。以下、諾否疑問文を上記の4種類とし、諾否疑問文の焦点について探っていきたい。

2. 4. 2 諾否疑問文の焦点

呂叔湘 (2002:576) は諾否疑問文の焦点について“是非問句一般是对整个陈述的疑问, 但有时候也会集中在某一点, 形成一个焦点, 这个焦点在说话中可以用对比重音来表示”「諾否疑問文は一般的に文全体の陳述に対する疑問であるが、時には話し手が疑問に思う部分が一点に置かれ、焦点を形成する。この焦点は会話の中で対比アクセントで表される。」と説明している。以下の例を参照されたい。

(32) 你 明天 到 车站 去 买 票 吗? (呂叔湘 2002:576)

あなた 明日 至る 駅 行く 買う チケット MA

[あなたは明日、駅にチケットを買いに行きますか?]

呂叔湘 (2002:576) は上記の例においてアクセントが“你”にあれば、焦点は“你”、アクセントが“明”にあれば、焦点は“明天”、“站”にあれば、焦点は“车站”、“票”にあれば焦点は“票”であると説明している。また同じように尹洪波(2008)は諾否疑問文の焦点についてある時は文全体を尋ねる疑問文であるが、ある時は文中の一点を強調する表現、つまりある一点に焦点を持つ場合もあると指摘している。どこに焦点が位置するかは以下のような文脈によって決まると指摘している。

(33) 康大力: 妈! 你 爸爸 当初 就 在 这儿 卖 了 你的?

母 あなた 父 昔 JIU で ここ 売る LE あなた DE

[母さん! あなたの父が昔、ここであなたを売ったのですか?]

康顺子: 对了, 乖! 就是 这儿, 一 进 这儿的 门, 我 就 晕过去 了,

そのとおり 我が子 まさに ここ YI 入る ここ の 門 私 JIU めまい LE

我 永远 忘不了 这个地方! (尹洪波 2008:92)

私 永遠 忘れられない この場所

[その通りだよ。わが子よ。まさにここだ。この門に入るとめまいがした。私はこの場所を永遠に忘れられない!]

上記の“你爸爸当初就在这儿卖了你的?”では“你爸爸”、“当初”、“在这儿”、“卖了”、“你的”が焦点となる可能性がある。しかしこの文は発話者の“康大力”は聞き手“康顺子”が昔、父

親に売られたということを知っているという背景を持つものである。そのため焦点は“在这儿”であり、“你爸爸”、“当初”、“卖了”、“你的”ではないということがわかる。さらには聞き手“康顺子”が“就是这儿”と答えていることからやはり焦点は“在这儿”であることがわかる。以上から諸否疑問文の焦点が文中の一点に置かれる場合、その位置は文脈で決まるということがわかる。前節で挙げた上昇イントネーションからなるⅠ型は文全体を焦点とするタイプと文中のいずれか一点を焦点とするタイプがある。

(34)A: 将来 我 想 去 留学。

将来 私 たい 行く 留学する

[将来、私は留学したい。]

B: 你 去 留学?

あなた 行く 留学する

[あなたが留学する?]

上記の“你去留学?”は文全体が焦点となるタイプである。それはこの文において尋ねられているのは留学するかどうかではなく、“你去留学”という事実が本当であるかどうかを確認しているBの発話からわかる。このようなタイプは正反疑問文に書き換えることはできない。次にⅠ型の諸否疑問文の焦点が文中のある一点に定められる例を見ていきたい。

(35)A: “我 也 跟 你 去? 一块 去?” 巧珍 吃惊 地 问。

私 も と あなた 行く 一緒 行く 巧珍 びっくり DE 尋ねる

[「私もあなたと一緒に行く?一緒に行く?」巧珍はびっくりして尋ねた。]

B: 一块 去! (北大)

一緒 行く

[一緒に行くんだ!]

上記の“我也跟你去?”、“一块去?”はこれに対する答えの“一块去!”からわかるように焦点は“跟你”である。次にⅡ型、Ⅲ型、Ⅳ型の焦点の位置を見ていきたい。Ⅱ型、Ⅲ型、Ⅳ型は焦点の位置を文中のいずれか一点に置く。

(36)A: 明天 你 在 图书馆 学习 吗? ↗→↘

明日 あなた で 図書館 学ぶ MA

[明日、あなたは図書館で勉強しますか?]

B: 后天 去。

明後日 行く

[明後日行く。]

(37)A: 明天 你 在 图书馆 学习 吗? ↗→↘

明日 あなた で 図書館 学ぶ MA

[明日、あなたは図書館で勉強するのですか?]

B: 在 房间 学习

で 部屋 学ぶ

[部屋で勉強します。]

(38)A: 明天 你 在 图书馆 学习 吗? ↗→↘

明日 あなた で 図書館 学ぶ MA

[明日、あなたは図書館で勉強するのですか?]

B: 找 资料

探す 資料

[資料を探します。]

上記の“明天你在图书馆学习吗?”はイントネーションを変化させればⅡ型、Ⅲ型、Ⅳ型の諾否疑問文となる。(36)ではいずれの型も焦点は“明天”となる。これは質問に対する答えからわかる。また(37)(38)もいずれの型で焦点が“在图书馆”、“学习”となり、それは質問に対する答えからわかる。以上、諾否疑問文の焦点の特徴を見てきた。諾否疑問文の焦点の位置は何型に属するか、もしくはどのような文脈で用いられるのかで異なってくる。つまり諾否疑問文は焦点の位置は定まったものではなく、その文の属する型や文脈によって自由に焦点の位置を移動させる特徴がある。このような性質を本章では「可動焦点」と呼ぶことにする。

2. 4. 3 正反疑問文の形式的特徴

本節では正反疑問文の形式的な特徴を見ていく。正反疑問文は以下の形式にあるような述語(X)の肯定と否定を重ねる疑問文のことである。

(39) 你 去 不 去?

あなた 行く BU 行く

[あなたは行きますか?]

Xに入る述語が過去を表す場合は否定詞“没”を用いる。

(40) 你 买 没 买 什么衣服?

あなた 買う MEI 買う どんな服

[あなたはどんな服を買いましたか?]

Xには動詞以外にも形容詞、助動詞も入る。

(41) 他们 的 日子 难 不 难? (北大)

彼ら DE 日々 苦しい BU 苦しい

[彼らの日々は苦しいですか?]

(42) 你 会 不 会 游泳? (北大)

あなた できる BU できる 泳ぐ

[あなたは泳ぐことができますか?]

(40)は形容詞、(41)は助動詞を重ねた正反疑問文である。以上からわかるように正反疑問文は否定詞を含めた述語部分が“疑问标记”(疑問標識)として機能することがわかる。これは前節で説明した文末助詞との共起からもわかる。以下の例を参照されたい。

(43)a. 你 说 不 说 啊?

あなた 言う BU 言う A

[あなたは言いますか?]

b. 他 去 不 去 呢?

彼 行く BU 行く NE

[彼は行きますか?]

c.*你 吃 不 吃 吧?

あなた 食べる BU たべる BA

d.*你 来 不 来 吗?

あなた 来る BU 来る MA

前述したように“疑问标记”(疑問標識)として機能する文末助詞は“吧”と“吗”である。これらと正反疑問文は上記のc, dからもわかるように共起できない。それは正反疑問文の述語部分が“疑问标记”(疑問標識)であり、さらに“疑问标记”(疑問標識)として機能する“吧”と“吗”を必要としないためである。“啊”、“呢”は前述したように“疑问标记”(疑問標識)として機能しないため正反疑問文と共起できる。次に正反疑問文の“疑问标记”となる述語部分について見ていきたい。その際に述語の品詞によって以下のような分類をし、説明していきたい。

(44) Vneg V型

A neg A 型

A u x neg A u x 型

まず最初にVneg V型について説明していきたい。Vneg V型の形式を説明する上で注目すべきところは目的語の省略である。朱德熙(1982)は動詞の正反疑問文には以下のような形式があると指摘している。

(45) V0 不 V0: 开 会 不 开 会 ~有 人 没 有 人

開く 会議 BU 開く 会議 ある 人 MEI ある 人

V0 不 V: 开 会 不 开 ~ 有 人 没 有

開く 会議 BU 開く ある 人 MEI ある

V 不 V0: 开 不 开 会 ~ 有 没 有 人 (朱德熙 1982:203)

開く BU 開く 会議 ある MEI ある 人

上記の“V0 不 V0”は動詞目的語構造の動詞句の肯定と否定を重ねるタイプである。“V0 不 V”は前方は動詞目的語構造であるが、後方の目的語は省略された形である。“V 不 V0”は後方は動詞目的語構造であるが前方の目的語は省略された形である。邵敬敏(1996)は朱德熙(1982)の挙げた動詞句の正反疑問文の説明をさらに発展させ、以下のような形式があると指摘した。

- (46) 完整常式（完全型） V0 不 V0
 前省略式（前方省略型） V 不 V0
 后省略式（後方省略型） V0 不 V
 后删动宾式（後方動目省略型） V0 不

邵敬敏(1996)は目的語が省略されていない形を“完整常式”（完全型）とし、前方の目的語が省略されたものを“前省略式”（前方省略型）とし、後方の目的語が省略されたものを“后省略式”（後方省略型）、後方の動詞+目的が省略された形式を“后删动宾式”（後方動目省略型）とした。これらの具体的な例として邵敬敏(1996)は以下のような例を挙げている。

- (47)a. 你 还 认识 我 不 认识 我? (完整常式)

あなた まだ 認識する 私 BU 認識する 私

[あなたは私をまだ認識している（覚えている）のですか?]

- b. 你 走 了, 你 想 我 不 想 我? 你 要 我 不 要 我?

あなた 行く LE あなた 想う 私 BU 想う 私 あなた 必要とする 私 BU 必要とする 私

(完整常式) (邵敬敏 1996:108)

[あなたは行ってしまった。あなたは私の事を想っているの? あなたはわたしを必要としているの?]

- (48)a. 真 买 没 买 猎装 呀? (前省略式)

本当に 買う MEI 買う ハンティングウェア YA

[本当にハンティングウェアを買っていないのか?]

- b. 金一趟 平日 在 家 骂 不 骂 我? (前省略式) (邵敬敏 1996:108)

金一趟 平常 で 家 罵る BU 罵る 私

[金一趟は平常、家で私を罵りますか?]

- (49)a. 不过, 您 吃 白菜豆腐 不 吃? (后省略式)

しかし あなた 食べる 白菜豆腐 BU 食べる

[しかし、あなたは白菜豆腐を食べないの?]

b. 王 掌柜, 晚上 添 评书 不 添? (后删略式) (邵敬敏 1996:108)

王 支配人 夜 加える 講談 BU 加える

[王支配人は夜、講談を加えましたか?]

(50)a. 你 喜欢 恠小姐 做 你 的 妈妈 不? (后删动宾式)

あなた 好む 恠さん なる あなた の 母 BU

[あなたは恠さんがあなたのお母さんになるのを好ましく思いますか?]

b. 你们 要 我 说话 不? (后删动宾式)

あなたたち 必要とする 私 話す BU

[あなたたちは私が話すのを必要としますか?]

c. 这 开水 你 要 不? (后删动宾式) (邵敬敏 1996:109)

この お湯 あなた 必要とする BU

[このお湯をあなたは必要としますか?]

上記の“后删动宾式”(後方動目省略型)はcの例からわかるように目的語“这开水”を文頭に置くことができる。さらに邵敬敏(1996)は上記のような動詞目的語構造における省略以外にもVnegV型の複音節の省略も指摘している。

(51)a. 你 知 不 知道?

あなた 知る BU 知る

[あなたは知っていますか?]

b. 你 认 不 认识 我? (邵敬敏 1996:108)

あなた 知る BU 知る 私

[あなたは私を知っていますか?]

上記のaは前方の“知道”が省略され“知”になっている。またbは前方の“认识”が省略され“认”になっている。すべての複音節がこのような省略が可能なのではない。邵敬敏(1996)は“前进”、“行动”、“决定”などは省略ができないと説明している。

(52) a. *前 不 前进?

前進する BU 前進する

b. *行 不 行动?

行動する BU 行動する

c. *決 不 決定?

決める BU 決める

(邵敬敏 1996:115)

またこのような複音節の動詞の省略は多くの場合は前方のみで、以下のように後方のみを省略することはない。

(53) a. *你 知道 不 知?

あなた 知る BU 知る

b. *你 认识 不 认 我?

あなた 知る BU 知る 私

(邵敬敏 1996:115)

以上、VnegV型の形式と省略について見てきた。次にAnegA型について見ていきたい。このタイプは形容詞を用いられる。形容詞は目的語を取らないためVnegV型のようにいくつかの省略形式を持たない。しかし複音節の形容詞の場合、以下のような省略がなされる。

(54) a. 年 不 年轻?

若い BU 若い

[若いですか?]

b. 自 不 自豪?

自らを誇る BU 自らを誇る

[自らを誇りますか?]

c. 进 不 进步? (邵敬敏 1996:116)

進歩する BU 進歩する

[進歩しますか?]

またVnegV型と同じく省略は必ず前方のみで後方が省略されることはない。

(55) a. *年轻 不 年?

若い BU 若い

b. *自豪 不 自?

自らを誇る BU 自らを誇る

c. *进步 不 进?

進歩する BU 進歩する

最後にA u x neg A u x型について見ていきたい。このタイプは助動詞の肯定、否定から成り立つため、後続する成分は以下のような動詞である。

(56) 你 会 不 会 游泳? (北大)

あなた できる BU できる 泳ぐ

[あなたは泳ぐことができますか?]

(57) 你 能 不 能 说 汉语? (北大)

あなた できる BU できる 話す 中国語

[あなたは中国語を話すことができますか?]

また後続成分が上記のような動詞以外にも以下のような主語と述語からなるフレーズでも可能である。

(58) 能 不 能 你 自己 来 回答 这些 问题 呢? (北大)

できる BU できる あなた 自分 LAI 答える これら 問題 NE

[あなたはこれらの問題を自分で答えられますか?]

さらにA u x negA u x型は構成要素である助動詞が複音節であれば前方のみを省略することができるが、VnegV型、AnegA型と同様に後方のみを省略することはできない。

(59)a. 你 可 不 可 以 找 钱 给 我?

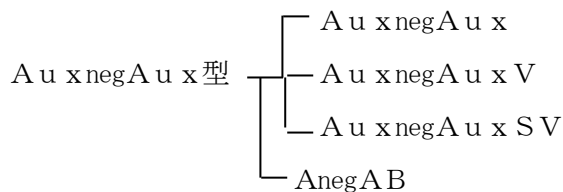
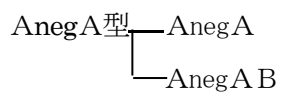
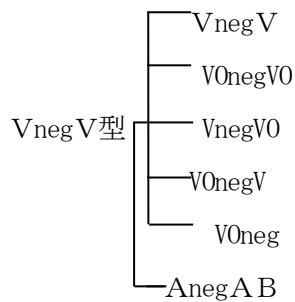
あなた できる BU できる おつりを渡す に 私

[あなたは私におつりを渡すことができますか?]

b.*你 可 以 不 可 以 找 钱 给 我? (北大)

あなた できる BU できる おつりを渡す に 私

以上、正反疑問文に見られるVnegV型、AnegA型、A u x negA u x型の形式的な特徴を見てきた。まとめると次のようになる。



上記の正反疑問文の形式を基に次節で正反疑問文の焦点について見ていきたい。

2. 4. 4 正反疑問文の焦点

本節では正反疑問文の焦点の特徴を見ていきたい。正反疑問文の焦点は先行研究において述語の肯定、否定部分と指摘されている。例えば尹洪波 (2008)は正反疑問文の焦点は“X不X”であると指摘している。つまり正反疑問文の焦点は述語部分に置かれるということである。また正反疑問文の焦点は常に述語の肯定、否定部分に置かれる。これは焦点標記“是”の位置からもわかる。以下、楊鮮灵(2002)の挙げた例を見ていきたい。

(60)a. 他 到底 现在 是 走 不 走 呢?

彼 一体 今 SHI 行く BU 行く NE

[彼は一体、今どこに行くというのだ?]

b.*他 到底 是 现在 走 不 走 呢? (楊鮮灵 2002:54)

彼 一体 SHI 今 行く BU 行く NE

上記の a は焦点標記“是”が述語部分の“走不走”の前に置かれている。そして b では焦点標記“是”が“现在”の前に置かれており、この文は非文となる。これは正反疑問文の焦点が常に述語部分に置かれるため、b のように焦点標記によって述語部分以外の場所が焦点として指定されると非文となるためである。以上からわかるように正反疑問文の焦点は常に述語の肯定否定部分である。このような特徴は文型や文脈によって焦点の位置を変えることができる諾否疑問文とは対照的である。正反疑問文の焦点はVnegV型、AnegA型、A u x neg A u x 型のいずれであれ、どんな文脈であれ、常に述語の肯定否定部分に置かれる。以下、この正反疑問文の焦点の性質を諾否疑問文と対照させながら見ていく。

(61) a. A:雪琪, 你 明天 走 吗?

雪琪 あなた 明日 行く MA

[雪琪, あなたは明日、行きますか?]

B:明天 或 后天。 (北大)

明日 か 明後日

[明日か明後日にします。]

b. A:雪琪, 你 明天 走 不 走?

雪琪 あなた 明日 行く BU 行く

[雪琪, あなたは明日、行きますか?]

B: #明天 或 后天。

明日 か 明後日

[明日か明後日にします。]

(62)a. A: 你们 明天 走 吗?

あなたたち 明日 行く MA

[あなたたちは明日行きますか?]

B: #看 家具 能 不 能 卖出去。(北大)

見る 家具 できる BU できる 売り出す

[(明日、行くかどうかは) 家具が売り出されるかどうか様子を見てからです。]

b. A: 你们 明天 走 不 走?

あなたたち 明日 行く BU 行く

[あなたたちは明日行きますか?]

B: #看 家具 能 不 能 卖出去。

見る 家具 できる BU できる 売り出す

[(明日、行くかどうかは) 家具が売り出されるかどうか様子を見てからです。]

(63)a. A: 你 早上 洗澡 吗?

あなた 朝 入浴する MA

[あなたは朝、入浴しますか?]

B: 我 晚上 洗。(北大)

私 夜 入浴する

[私は夜に入浴します。]

b. A: 你 早上 洗 不 洗澡?

あなた 朝 入浴する BU 入浴する

[あなたは朝、入浴しますか?]

B: #我 晚上 洗。

私 夜 入浴する

[私は夜に入浴します。]

上記(61)a ではAが“你明天走吗?”と質問するのに対して、Bが“明天或后天。”と答えてい

るところからAの“你明天走吗?”の焦点は“明天”にあることはわかる。(61)aの“你明天走吗?”を正反疑問文に置き換えた(61)bでは“明天或后天。”という受け答えは適切ではない。それは正反疑問文の焦点は常に述語の重複部分にあり、述語部分の是非を尋ねているため、“明天或后天。”という動作の発生時間に対する回答は相応しくないためである。同じく(62)(63)もaの諾否疑問文の方が適切と言える。それは受け答えの“看家具能不能卖出去。”、“我晚上洗”がいずれも述語部分に対する回答ではないためである。以上の例から正反疑問文の焦点は常に述語部分に置かれることがわかる。この焦点の性質は焦点の位置を自由に移動させることができる「可動焦点」の諾否疑問文とは対照的である。以上のような正反疑問文の焦点の特徴を本稿では「固定焦点」と呼ぶことにする。

2. 5 意味指向副詞と疑問文の共起制限

本節では前節で説明した意味指向副詞と諾否疑問文と正反疑問文の共起状況の差異を探っていきたい。正反疑問文は意味指向副詞と共起することが難しい。2. 0節で挙げた例を再掲したい。

(3)' b. *你们 都 来 不 来?

あなたたち 皆 来る BU 来る

(4)' b. *你 一生 只 爱 不 爱 一 个 人?

あなた 一生 だけ 愛する BU 愛する 一 GE 人

(5)' b. *你 最 喜 不 喜欢 我 的 歌 儿?

あなた 最も 好き BU 好き 私 DE 歌

(6)' b.*你 常常 看 不 看 电 影?

あなた よく 見る BU 見る 映画

しかし正反疑問文とよく比較される諾否疑問文は上記の副詞と問題なく共起できる。

(3)' a. 你们 都 来 吗?

あなたたち 皆 来る MA

[あなたたちは皆、来ますか?]

(4)' a. 你 一 生 只 爱 一 个 人 吗?

あなた 一生 だけ 愛する 一 GE 人 MA

[あなたは一生一人だけを愛しますか?]

(5)' a. 你 最 喜欢 我 的 歌 儿 吗?

あなた 最も 好き 私 の 歌 MA

[あなたは私の歌が最も好きですか?]

(6)' a. 你 常 常 看 电 影 吗?

あなた よく 見る 映画 MA

[あなたはよく映画を見ますか?]

上記からわかるように正反疑問文は意味指向副詞から制約を受ける。以下、2. 4節で説明した正反疑問文の焦点の特徴がどのように関係して、共起制限を生み出すのか、また諾否疑問文の焦点の特徴がなぜ意味指向副詞と矛盾が生じないのか見ていきたい。

意味指向副詞は意味対象を焦点とする。そして疑問文においては副詞自身とこれら意味対象を焦点とする。この性質は「可動焦点」の諾否疑問文とは矛盾は生じないが、「固定焦点」の正反疑問文とは矛盾が生じる。

(64) a. 战俘 是 由 陆军 来 处置的, 海军 也 可以 处置 战俘。

捕虜 SHI から 陸軍 LAI 処理する 海軍 も できる 処理する 捕虜

[捕虜は陸軍によって処理されることになっているが、海軍も処理してよい。]

b. 战俘 是 由 陆军 来 处置的, 海军 也 可以 处置 战俘 吗? 《飞》

捕虜 SHI より 陸軍 LAI 処理する 海軍 も できる 処理する 捕虜 MA

[捕虜は陸軍により処理されることになっているが、海軍も処理することはできるのか?]

c. *战俘 是 由 陆军 来 处置的, 海军 也 可以 不 可以 处置 战俘?

捕虜 SHI から 陸軍 LAI 処理する 海軍 も できる BU できる 処理する 捕虜

(65)a. “我 很 喜欢 你 的 制服,” 马吉里 补充 道,

私 とても 好き あなたの 制服 マジリ 補足して 言う

“拉斯维加斯的警察 都 穿 这个”

ラスベガス の 警察 皆 着る これ

〔私はあなたの制服がとても好きです。〕マジリが補足して言った。ラスベガスの警察は皆、これを着ている。〕

b. “我 很 喜欢 你的 制服,” 马吉里 补充 道,

私 とても 好き あなたの 制服 マジリ 補足して 言う

“拉斯维加斯的警察 都 穿 这个 吗?” 《邪》

ラスベガス の 警察 皆 着る これ MA

〔私はあなたの制服がとても好きです。〕マジリが補足して言った。ラスベガスの警察は皆、これを着ているのですか?〕

c. * “我 很 喜欢 你的 制服,” 马吉里 补充 道,

私 とても 好き あなたの 制服 マジリ 補足して 言う

“拉斯维加斯的警察 都 穿 不 穿 这个?”

ラスベガス の 警察 皆 着る BU 着る これ

(66)a. 那 你 只 喜欢 我一个

では あなた だけ 好き 私一人

〔ではあなたは私一人だけを好き。〕

b. 那 你 只 喜欢 我一个 吗? 《吻》

では あなた だけ 好き 私一人 MA

〔ではあなたは私一人だけを好きなの?〕

c. * 那 你 只 喜欢 不 喜欢 我一个?

では あなた だけ 好き BU 好き 私一人

(67)a. 这 世界上, 她 最 漂亮。

この 世界 彼女 最も きれい

〔この世界で彼女が最も美しい。〕

b. 这 世界上, 她 最 漂亮 吗? (北大)

この 世界 彼女 最も きれい MA

[この世界で彼女が一番美しいですか?]

c. *这 世界上, 她 不 漂亮 不 漂亮?

この 世界 彼女 最も きれい BU きれい

(68)a. 你 常常 参加 志愿活动。

あなた よく 参加する ボランティア活動。

[あなたはよくボランティア活動に参加します。]

b. 你 常常 参加 志愿活动 吗? (北大)

あなた よく 参加する ボランティア活動 MA

[あなたはよくボランティア活動に参加しますか?]

c. *你 常常 不 参加 志愿活动?

あなた よく 参加する BU 参加する ボランティア活動

上記(64)aは“也”の意味対象は“海军”である。つまりこの文において焦点は“海军”となる。そしてbのように諾否疑問文に書き換えることが可能である。諾否疑問文に置き換えると焦点は意味指向副詞“也”とその意味対象である“海军”となる。このように意味指向副詞が諾否疑問文と共起できるのは諾否疑問文は「可動焦点」であり、焦点の所在が副詞“也”と“海军”であったとしても問題ないためである。しかしcのように正反疑問文に置き換えることはできない。これは正反疑問文は「固定焦点」であり、焦点を常に述語の肯定否定部分に常に定め、“也”と“海军”を焦点とできないためである。次に(65)aでは“都”の意味対象は“拉斯维加斯的警察”であり、またこれが焦点である。これをbのように諾否疑問文に置き換えると、焦点は意味指向副詞“都”と“拉斯维加斯的警察”になる。しかしこの例はcのように正反疑問文に置き換えることはできない。これは正反疑問文が述語の肯定否定部分に焦点を固定する「固定焦点」であるためである。(66)a, (67)a, (68)aも“只”、“最”、“常常”の意味対象が焦点となる。(66)b, (67)b, (68)bは「可動焦点」の特徴を持つ諾否疑問文であるため、これらの意味指向副詞と意味対象を焦点として置くことができるが、(66)c, (67)c, (68)cは「固定焦点」の特徴を持つ正反疑問文であるため副詞とこれらが指定する対象を焦点として置くことができないため、成立することができない。以上からわかるように意味指向副詞が用いられた疑問文

はこれら副詞自身とこれらの意味対象を焦点とする。ゆえに焦点を移動することができる「可動焦点」の諾否疑問文はこれらの副詞と共起して、副詞が指定する語を焦点として受け入れることができるが、述語の肯定否定部分を常に焦点として固定する「固定焦点」の正反疑問文は受け入れることができない。また上記で挙げた“常常”のように意味対象が述語部分にあるため、述語部分に焦点が存在する場合でも「固定焦点」の正反疑問文を用いることができない。

(68)a. 你 常常 去 美国 吗?

あなた よく 行く アメリカ MA

[あなたはよくアメリカに行きますか?]

b.*你 常常 去 不 去 美国?

あなた よく 行く BU 行く アメリカ

[あなたはよくアメリカに行きますか?]

上記の a において焦点は“常常”と“去”であり、また副詞“常常”は意味対象を“去”としている。つまりこの例において焦点は述語部分にある。しかし尋ねられる内容は“去”（行く）かどうかではなく、“去”という動作が“常常”（頻繁に）であるかどうかである。正反疑問文は「固定焦点」であるため、述語部分が行われるかどうかを尋ねるものである。ゆえに焦点を副詞“常常”と“去不去”に置く b は成立しない。

2. 6 終わりに

本章では意味指向副詞の特徴とこれが疑問文の焦点と共起した際に見せる状況について分析を行ってきた。意味指向副詞とはその意味対象を焦点とする副詞である。焦点を指定するというこれらの副詞の特徴が疑問文の焦点の特徴である「固定焦点」と「可動焦点」に影響を与え、冒頭(3)～(6)で挙げた共起制限を生み出すと言える。

3. 副詞とアスペクト

3. 0 本章の内容

本章ではアスペクト副詞“已经”“马上”“立刻”“眼看”の特性とその特性が「将然のアスペクト」の“快要～了”、“就要～了”にどのような影響を与えるのか見ていきたい。アスペクト副詞は“快要～了”、“就要～了”と共起すると以下のような制約が生じる。

(1)a. 天 已经 快要 亮 了。(北大)

空 既に 間もなく 明ける LE

[空がすでに間もなく明けようとしている。]

b. *天 已经 就要 亮 了。

空 既に 間もなく 明ける LE

(2)a. 我 的 梦想 马上 就要 实现 了。(北大)

私 の 夢 すぐに 間もなく 実現する LE

[私の夢がすぐ間もなく実現する]

b. ??我 的 梦想 马上 快要 实现 了。

私 の 夢 すぐに 間もなく 実現する LE

(3)a. 看 了 一眼 之后, 心里 明白, 危险 立刻 就要 来到 了。(北大)

見る LE 一目 後 心 わかる 危険 すぐに 間もなく やって来る LE

[一目見た後、わかった。危険がすぐに間もなくやってくる。]

b. ??看 了 一眼 之后, 心里 明白, 危险 立刻 快要 来到 了。

見る LE 一目 後 心 わかる 危険 すぐに 間もなく やって来る LE

(4)a. 一个 寒冷的 下午, 天色 阴暗, 眼看 就要 下雪 了。(北大)

ある 寒い 午後 空模様 暗い すぐに 間もなく 雪が降る LE

[ある寒い午後、空模様は暗く、すぐに雪が降りそうだった。]

b. ??一个 寒冷的 下午, 天色 阴暗, 眼看 快要 下雪 了。

ある 寒い 午後 空模様 暗い すぐに 間もなく 雪が降る LE

上記からわかるように“快要～了”、“就要～了”はアスペクト副詞との共起においてそれぞれ異なった様相を見せる。具体的に言うと“快要～了”は副詞“已经”と共起できるが、副詞“马上”、“立刻”、“眼看”とはあまり相性が良くない。また“就要～了”は副詞“马上”、“立刻”、“眼看”と共起できるが、副詞“已经”と共起できない。本章ではこのようなアスペクト副詞と「将然のアスペクト」の共起制限について扱っていききたい。分析手順はアスペクトの定義を明らかにしたのち、アスペクト副詞の性質、「将然のアスペクト」の性質を考察し、上記で挙げたような共起制限が生じる原因を探っていききたい。

3. 1 アスペクトの定義

本節では中国語の時間の概念について説明し、アスペクトの定義について明らかにしていきたい。時間の概念として挙げられるものはアスペクト以外にもテンスが存在する。寺村(1984:117)によるとアスペクトとは「事象をある幅、プロセスの中のどういう位置にあるのかを表そうとする形式」、テンスは「事象を点として見、基本的には発話時を基準として、その点が発話時のことであるのか前であるのか後であるのか問題にする形式である」と指摘している。つまりアスペクトはある事象の状態を表し、テンスはある事象が行われた時間が発話時とどのような距離にあるのか、つまり発話時と重なるのか、発話時より未来、過去なのかを表すものである。木村(2012:137)は中国語のアスペクトとテンスについて多くの先行研究が示すように中国語にはテンスが存在しなく、アスペクトのみが存在すると指摘している。以下、木村(2012:137)の例を参照されたい。

(5) 爸爸 现在 /以前 /明年 在 北京 工作。(木村2012:137)

父 今 以前 来年 で 北京 仕事をする

[父は今、北京で仕事をしている。]

[父は以前、北京で仕事をしていた。]

[父は来年、北京で仕事をする。]

(5)の「父が北京で働く」「在 北京 工作」という事象は過去を表す“以前”、現在を表す“现在”、未来を表す“明年”と共に用いられていることから、過去、現在、未来のテンスに区別なく用いることができるというのがわかる。これはつまり“在 北京工作”という事象にはテンスが存在しないということである。中国語は上記(5)にあるように時間を表す語“明年”、“现在”、

“以前”を用いてテンスを表すことはできるが、文法的な手段でテンスを表すことはない。ゆえに木村（2012:137）では中国語は無テンスの言語だと指摘している。本節では以上のように中国語には文法的な要素でテンスを表すことがないため、副詞が表す時間的な概念をテンスではなく、アスペクトとし、以下、中国語におけるアスペクトの定義とその種類を見ていきたい。王力(1984:201)はアスペクトを“情貌”とし、“普通貌”、“进行貌”、“完成貌”、“近过去貌”、“开始貌”、“继续貌”、“短时貌”の7種類に分類している。以下、これらの具体的な例を見ていく。それぞれのアスペクトに該当する箇所に棒線を付す。

(6) 我 明天 再 来 找 你。 (北大)

私 明日 また 来る 尋ねる あなた

[私はまた明日、あなたを尋ねます。]

(7) 站 在 画家 身后, 专心地 看 着 他 画画。(北大)

立つ に 画家 後ろ 熱心に 見る ている 彼 描く

[画家の後ろに立って、彼が描くのを熱心に見ている。]

(8) 回 到 家 后 才 吃 了 点 夜宵。(北大)

戻る に 家 後 やっと 食べる た 少し 夜食

[家に戻った後、やっと少し夜食を食べた。]

(9) 我 刚才 撒谎 来 着。(北大)

私 たった今 嘘を言う た

[私はたった今、嘘を言った。]

(10) 就 像 火山 突然 爆发 一样, 拼命地 呐 喊 起 来。(北大)

JIU ように 火山 突然 爆発 ように 懸命に 叫ぶ 始める

[火山が突然爆発したように懸命に叫びだした。]

(11) 共同 解决 这些 问题, 并 落 实 下 去。(北大)

共同 解決する これらの 問題 また 実行する 続ける

[共同でこれらの問題を解決し、また実行し続ける。]

(12) 聊聊 家常, 听听 他们的意见和建议。(北大)

話す 日常のこと 聞く 彼らの意見と建議

[日常のことを話し、彼らの意見と建議を聞く。]

上記(6)は“普通貌”である。“普通貌”とはアスペクト的な表現を持たないもののことである。(7)は動作の進行を表す“进行貌”である。アスペクト標記としては“着”が用いられている。(8)は動作の完了を表す“完成貌”である。アスペクト標記としては“了”が用いられている。(9)は動作が完了していて、尚且つ完了してから間もないことを表す“近过去貌”である。上記ではアスペクト標記として“来着”が用いられている。(10)は動作の始動を表すアスペクトの“开始貌”であり、アスペクト標記としては“起来”が用いられる。(11)は動作や状態の継続を表す“继续貌”である。アスペクト標記としては“下去”が用いられる。最後に(12)は動作や状態が短い時間に起こることを表す“短时貌”である。アスペクト標記としては動詞の重畳が用いられている。次に呂叔湘(1944:228)が挙げるアスペクトの分類について見ていきたい。呂叔湘(1944:228)はアスペクトを“动相”とし、その定義を“一个动作的过程中的各种阶段者, 就动相而言。”「動作の過程の各段階にあるものを“动相”という。」と指摘している。そしてアスペクトに属するものとして“表动作之将有”「動作が間もなく行われることを表す表現」、「表动作正在进行」「動作がまさに行われることを表す表現」、「表动作已经完成」「動作がすでに完了したことを表す表現」の大きく3つに分類している。

(13) 我 要 结束 了, 下面 该 轮到 你 了。(北大)

私 まもなく 終わる LE 次は はず 順番になる あなた LE

[私はまもなく終わる。次はあなたの順番になるはずだ。]

(14) 美国、日本、意大利、德国 和 我国 等 不少 科学家 正在 积极 研究。

アメリカ 日本 イタリア ドイツ と 我が国 など 多く 科学者 まさに 積極的に 研究する

(北大)

[アメリカ、日本、イタリア、ドイツそして我が国など多くの科学者がまさに積極的に研究している。]

(15) 这 导致 了 什么 结果, 我们 已经 知道 了。(北大)

これ 引き起こす LE どんな 結果 私たち 既に 知る LE

[これがどんな結果を引き起こしたか私たちはすでに知っている。]

上記(13)は動作がこれから行われることを表す“表動作之将有”「動作が間もなく行われることを表す表現」、(14)は“表動作正在进行”「動作がまさに行われることを表す表現」、(15)は“表動作已经完成”「動作がすでに完了したことを表す表現」である。呂叔湘(1944:228)はこの3つを更に細かく“方事相”、“既事相”、“起事相”、“继事相”、“先事相”、“后事相”、“一事相”、“多事相”、“短时相”、“尝试相”、“屡发相”、“反复相”に分類している。本章では以上の先行研究におけるアスペクトの分類を踏まえてアスペクトを動作の完了を表す「完了のアスペクト」、動作の進行を表す「進行のアスペクト」、動作がこれから行われることを表す「将然のアスペクト」、動作の始まりを表す「開始のアスペクト」、動作が短時間であることを表す「暫時のアスペクト」、動作の継続を表す「継続のアスペクト」の6種類に分類する。次の節ではアスペクトを以上の分類に基づき、それぞれのアスペクト標記挙げ、本章で扱うアスペクト副詞“已经”“马上”“立刻”“眼看”との関係を見ていく。

3. 2 アスペクト標記と副詞

本節では前節で挙げたアスペクトの分類に見られるアスペクト標記の代表例を紹介し、アスペクト副詞“已经”、“马上”、“立刻”、“眼看”との関係性について考察していく。まず「完了のアスペクト」におけるアスペクト標記を見ていきたい。

(16)我 看 了 一 本 书。(北大)

私 読む LE 一冊 本

[私は一冊の本を読んだ。]

上記(16)の例では助詞“了”が「完了のアスペクト」を表している。助詞“了”は「完了のアスペクト」を表す標記として一般的である。また“来着”、“曾经”、“过”も「完了のアスペクト」を表す。以下の例を参照されたい。

(17)在 十二村 解决 了 土匪 高建勋, 我 都 亲眼 见 来着。(北大)

で 12の村 消滅する LE 土着の悪者 高建勋 私 すべてこの目 見る LAIZHE

[12の村で土着の悪者、高建勋が消滅した。私はこの目で見ました。]

(18)佛教 曾经 举办 不少 义学。(北大)

佛教 以前 行う 多く 義塾

[佛教は以前、多くの義塾を開いた。]

(19) 张家界, 我 以前 去 过 一次。(北大)

张家界 私 以前 行く したことがある 一度

[张家界には私は以前、一度行ったことがある。]

上記の例からわかるように“来着”、“曾经”、“过”はみな参照点以前に起こった動作や状態の経験を表している。次に「進行のアスペクト」が用いられた例を見ていきたい。

(20) 当代 国际社会 正在 进行 一场 新 技术革命。(北大)

現代 国際社会 まさに 進行する YICHANG 新しい 技術革命

[現代の国際社会はまさに新しい技術革命が進行している。]

(21) 王经理 正 吃 烤鸭 呢。(北大)

王社長 まさに 食べる アヒルの丸焼き NE

[王社長はまさにアヒルの丸焼きを食べている。]

(22) 他 在 看 电视。(北大)

彼 まさに 見る テレビ

[彼はまさにテレビを見ている。]

上記(20)(21)(22)の“正在”、“正”、“在”は動作の進行を表している。次に「将然のアスペクト」を表す例を見ていきたい。

(23) 马林 的 兵 将 要 出 战。(北大)

馬林 の 軍隊 まもなく 出陣する

[馬林の軍隊はまもなく出陣しようとしている。]

(24) 未来社会 人类 将 进入 “自由个性” 的 发展 阶段。(北大)

未来の社会 人類 まもなく 入る 自由な個性 の 発展 段階

[未来社会において人類はまもなく“自由な個性”の発展の段階に入るだろう。]

(25) 我 简直 要 疯 了。(北大)

私 まるで しそう 気が狂う LE

[私はまるで気が狂ってしまいそうだ。]

(26) 你 终于 醒来 了, 奶奶 快 担心死 了。《笑》

あなた やっと 目を覚ます LE おばあちゃん あと少し 心配して死ぬ LE

[あなたはやっと目を覚ました。おばあちゃんは心配であと少しで死んでしまうところだった。]

(27) 比赛 快要 开始 了! (北大)

試合 間もなく はじめる LE

[試合が間もなく始まります!]

(28) 我们 的 会议 就要 结束 了。(北大)

私たち の 会議 間もなく 終わる LE

[私たちの会議は間もなく終わります。]

「将然のAspect」を表す標記は上記のように“将要”、“将”、“要～了”、“快～了”、“快要～了”、“就要～了”である。これらは動作や状態がこれから行われることを表している。また「将然のAspect」は先行研究によってはAspectではなくテンスとして扱うものもある。例えば張万禾, 石毓智(2008)は未来のテンスとして以下の例を挙げている。

(29) 眼看 要 变 天 了, 急 得 团团转。(张万禾, 石毓智 2008:29)

すぐに そう 変わる 空 LE 激しい DE 慌ただしく

[すぐに空が変わりそうだ。激しく慌ただしく動き回っている。]

張万禾, 石毓智(2008)は上記の例にある“要”を“将来時标记”とし、テンスとして扱っている。つまり“要”に後続する“变天”という状態が発話時よりも先に生じると捉えられている。以上からわかるように「将然のAspect」を未来のテンスとして扱う先行研究も存在する。しかし「将然のAspect」を未来のテンスとして扱うと以下の例が成立することを説明できなくなる。

(30) 1 9 4 6 年 的 春天, 运动 的 高潮 快要 接近 尾声 了。(北大)

1946年 の 春 運動 の 盛り上がり 間もなく 近づく 最終段階 LE

[1946年の春、運動の盛り上がりは間もなく最終段階に近づこうとしていた。]

(31) 去年 那时候, 我 眼看 就要 考试 了。(北大)

去年 あの時 私 すぐに 間もなく 試験 LE

〔去年のあの時、私はすぐ間もなくに試験を控えていた。〕

(30)では“接近尾声”、(31)では“考试”がまもなく起こりそうなことを表している。そして実際、その出来事が起こるのは“1946年的春天”、“去年那时候”からわかるように発話時よりも過去のことである。仮に上記で用いられている“要～了”、“就要～了”が未来のテンスを表すならば、上記のような過去のことを表す例には用いられず、これから起こる未来のことを表す場合のみに用いられるはずである。上記のような例が存在するため、やはり状態や動作がこれから起こることを表す表現は中国語においてはテンスではなく、「将然のアスペクト」として捉えることが妥当だと考える。そのため本節では「将然のアスペクト」をアスペクトの分類に組み入れていきたい。次に「開始のアスペクト」の例を見ていきたい。

(32)在 这种 情况下, 农业中 的 资本主义 关系 发展 起来。(北大)

で この 状況もと 農業 の 資本主義 関係 発展 始める

〔この状況のもとで、農業の資本主義の関係は発展し始めた。〕

上記の“起来”は“发展”という動作が開始することを表している。次に「暫時のアスペクト」の例を見ていきたい。

(33)我们 多 住 了 几天, 看看 长江 风光, 也 游游 苏轼 当 过 官

私たち 多く 滞在する LE 何日 見る 長江 風景 も ぶらつく 蘇軾 なる GUO 役人

的 故地。(北大)

の 故居

〔私たちは何日か多く滞在し、長江の風景をちょっと見たり、蘇軾が役人となった故居をぶらつきましょう。〕

上記(33)は動詞の重畳が用いられ、「暫時のアスペクト」を表す例である。“看看”は“长江风光”（長江の風景）を観光する時間が短いことを表している。最後に「継続のアスペクト」の例を見ていきたい。

(34)我 在 南门 等 着 你。(北大)

私 で 南門 待つ ている あなた

〔私は南門であなたを待っています。〕

(35) 摇摇头, 笑了笑, 慢慢的沿街走下去。《非》

振る 頭 笑う LE 笑う ゆっくり 沿う 大通り 歩く 続ける

〔頭を振って、笑い、ゆっくりと大通りに沿いながら歩き続ける。〕

上記の例は“着”、“下去”がアスペクト標記となり、動作の継続を表している。以上、アスペクト標記について見てきた。次に本章で扱うアスペクト副詞とアスペクト標記の関係を見ていく。

(36) 日本 已经 实现了 农业 现代化。(北大)

日本 既に 実現する LE 農業 現代化

〔日本は既に農業の現代化を実現した。〕

(37) 世界市场 已经 基本上 形成。(北大)

世界市場 既に 基本 形成する

〔世界市場は既に基本的な形成はなされている。〕

上記の例はアスペクト副詞“已经”が用いられた例である。(36)は“已经”とアスペクト標記の“了”が用いられ、「完了のアスペクト」を表している。また“已经”は(37)のように単独で用いられても「完了のアスペクト」を表す。以上からわかるように“已经”は「完了のアスペクト」の標記になる。次に“马上”、“立刻”、“眼看”が用いられた例を見ていく。

(38) 我 马上 递上 名片 做 自我介绍。

私 すぐに 渡す 名刺 する 自己紹介

〔私は名刺を渡してすぐに自己紹介をした。〕

(39) 托儿所 安装 煤气 缺少 资金, 他 立刻 捐出 200元。

託児所 設置する ガス 足りない 資金 彼 すぐに 募金する 200元

〔託児所はガスを設置する資金が足りないため、彼はすぐに200元募金した。〕

(40) 眼看 夕阳 西下, 天色 渐渐 暗了下来。

すぐに 夕日 西に落ちる 空の色 徐々に 暗くなる

〔夕日が西に落ちて空が徐々に暗くなった。〕

上記(38)では“马上”が後続する動作“递上名片作自我介绍”が達成されるまで時間が短いことを表している。また(39)(40)の“立刻”、“眼看”も後続する動作が達成されるまでの時間が短いことを表している。以上から“马上”、“立刻”、“眼看”は「暫時のアスペクト」の標記になることがわかる。本章では「完了のアスペクト」の“已经”、「暫時のアスペクト」の“马上”、“立刻”、“眼看”と「将然のアスペクト」の“就要～了”、“快要～了”の共起制限について考察していく。

3. 3 アスペクトと注視点

アスペクト副詞と「将然のアスペクト」の共起制限の分析に入る前にアスペクトの注視点という概念を確認していきたい。注視点について下地(2011)では中国語のアスペクト形式について話し手の視点を用いて考察を行っている。下地(2011)は視点をどこから見ているのかを「視座」もしくは「観察点」、どこを見ているのかを「注視点」と説明している。この注視点の概念を前節で挙げたアスペクトの分類に用いると、「完了のアスペクト」では話し手がある事象の完了、「進行のアスペクト」は話し手がある事象の進行、「将然のアスペクト」は話し手がある事象がまもなく生じること、「開始のアスペクト」は話し手がある事象が始まること、「暫時のアスペクト」は話し手がある事象が短い時間であること、「継続のアスペクト」は話し手がある事象が継続状態であることに注視点を置いている。このように各々のアスペクトの分類には互いに異なった注視点を持つということがわかる。また同じアスペクトの分類に属しているが、注視点が異なるものもある。例えば前節で挙げた「完了のアスペクト」を表す“过”と“来着”には注視点の違いが見られる。両者とも経験を表すが、“过”の方が遠い出来事を経験を注視点とし、“来着”の方がより近い出来事を経験を注視点とする。この両者の注視点の違いは龚千炎(1995)が挙げる例からもわかる。

(41)a. 我 刚才 在 街上 看见 小李 来着。

私 たった今 で 街 見る 李さん LAIZHE

[私はたった今、街で李さんを見た。]

b. *我 刚才 在 街上 看见 过 小李。

(龚千炎 1995:87)

私 たった今 で 街 見る GUO 李さん

¹注視点とは話し手がある一点に着目するという点で前章の焦点と類似した意味を有するが、注視点は焦点のようなある一点を強調するものではなく、話し手の視点がどの位置にあるのかを示すものである。

(42)a. 刚刚 老何 找 你 来着, 你 到 哪里 去 了?

たった今 何さん 探す あなた LAIZHE あなた まで どこ 行く LE

[たった今、何さんはあなたを探していた。あなたはどこに行っていたの?]

b. *刚刚 老何 找 过 你, 你 到 哪里 去 了? (龚千炎 1995:87)

たった今 何さん 探す GUO あなた あなた まで どこ 行く LE

上記の例からわかるように“来着”は“刚才”、“刚刚”と共起可能であるが、“过”は共起することはできない。これは“来着”、“过”の注視点と“刚才”、“刚刚”が表す意味が原因となる。“刚才”、“刚刚”は「暫時のアスペクト」であり、ある事象の発生時と達成時の短い距離に注視点を置く。このような注視点の特徴はより近い出来事を経験を注視点とする“来着”とは矛盾が生じることはないが、遠い出来事を経験を注視点とする“过”とは相容れない。また前節で挙げたアスペクト分類において、同じく「進行のアスペクト」を表す“正在”、“正”、“在”にも注視点の違いが見られる。张亚军(2002:239)は“正”、“正在”、“在”について“正”、“正在”は“重于表达动作行为与参照时点的一致性”「動作もしくは行動と参照点の一致に重きを置く表現。」とし、“在”は“重于表达动作行为或状态的过程性”「行動もしくは状態の過程に重きを置く表現。」と説明している。つまり“正”、“正在”の注視点は動作と参照の一致する部分に置かれ、“在”の注視点は動作や状況が生じた後の状態に置かれているということである。このような違いは以下の副詞との共起からもわかる。

(43)a. 他 觉得 他 家里的 电话 就 一直 在 被 人 窃听 或 录音。 (张亚军 2002:239)

彼 思う 彼 家 の 電話 JIU ずっと ている よって 人 盗聴 か 録音

[彼は家の電話がずっと誰かに盗聴か録音されていると思っている。] (=1章(8)a)

b. 在 拐弯 前, 我 回头 看见 她 还 在 向 我们 挥手 告别。

で 曲がる 前 私 振り返る 見る 彼女 まだ ZAI 向かって 私たち 手を振る 別れを告げる

(张亚军 2002:239) (=1章(8)b)

[曲がる前に私が振り返ると、彼女はまだ私たちに向かって手を振り、別れを告げていた。]

(44)a. *他 觉得 他 家里的 电话 就 一直 正 被 人 窃听 或 录音。

彼 思う 彼 家 の 電話 JIU ずっと ZHENG よって 人 盗聴 か 録音

(=1章(9)a)

b. *在 拐弯 前, 我 回头 看见 她 还 正 向 我们 挥手 告别。

で 曲がる 前 私 振り返る 見る 彼女 まだ ZHENG 向かって 私たち 手を振る 別れを告げる

(=1 章 (9) b)

(45) a. *他 觉得 他 家里 的 电话 就 一直 正在 被 人 窃听 或 录音。

彼 思う 彼 家 の 電話 JIU ずっと ZHENGZAI よって 人 盗聴 か 録音

(=1 章 (10) a)

b. *在 拐弯 前, 我 回头 看见 她 还 正在 向 我们 挥手 告别。

で 曲がる 前 私 振り返る 見る 彼女 まだ ZHENGZAI 向かって 私たち 手を振る 別れを告げる

(=1 章 (10) b)

上記の例からわかるように“一直”、“还”は“在”と共起することはできるが、“正”、“正在”とは共起することができない。これは“在”の注視点が動作や状態の過程であるため、ある動作や状態が保たれていること、つまり「継続のアスペクト」の“一直”、“还”とは相性が良いが、ある動作が行われた時間と参照点の一致性が注視点である“正”、“正在”とは相性が悪いためである。さらに「暫時のアスペクト」である動詞の重畳と同じく「暫時のアスペクト」である副詞“马上”、“眼看”、“立刻”においても注視点の違いが見られる。

(46) 我们 多 住 了 几天, 看看 长江 风光。(北大)

私たち 多く 滞在する LE 何日か 見る 長江 風景

[私たちは何日か多く滞在して長江の風景をちょっと見てみる。]

(47) 查问 完 以后, 马上 记下来。(北大)

査問する 終わる 後 すぐに 記録する。

[査問が終わった後、すぐに記録する。]

(48) 跑 得 更加 迅疾, 眼看 就 追上 了。(北大)

走る DE さらに 速く すぐに JIU 追いつく LE

[さらに速く走り、もうすぐに追いついてしまう。]

(49) 飞机 立刻 起飞, 在 杭州笕桥机场 降落。(北大)

飛行機 すぐに 飛ぶ で 杭州笕橋空港 着陸する

[飛行機はすぐに飛び、杭州笕橋空港に着陸した。]

上記の(46)では“看看”が時間の短さを表している。この時間の短さというのは“长江风光”を観光する時間の短さである。そして(47)(48)(49)では“马上”、“眼看”、“立刻”が時間の短さを表している。これらの例における時間の短さは“记下来”、“追上了”、“起飞”という動作が達成されるまでの短さを表している。つまり(46)の“看看”のような動詞の重畳の注視点はこの動作が行われている時間量に置かれており、“马上”、“眼看”、“立刻”の注視点は動作が達成されるまでの短い時間に置かれるということである。

以上、アスペクトの注視点について見てきた。アスペクトの注視点はアスペクト間で異なった様相を見せ、またその違いはアスペクト副詞と共起することによって明らかにすることができる。「将然のアスペクト」においても同じ分類同士のアスペクトが異なった様相を見せ、それは副詞との共起から明らかになる。次節では「将然のアスペクト」に見られる注視点の違いをアスペクト副詞の共起制限から考察していきたい。

3. 4 「将然のアスペクト」

3. 4. 1 「将然のアスペクト」と注視点

本節では「将然のアスペクト」である“快要～了”、“就要～了”の注視点について考察を行っていききたい。分析を行うにあたって、“快要～了”、“就要～了”は“要～了”に“快”、“就”を加えた構造とし、“快”、“就”が“要～了”に与える影響から“快要～了”と“就要～了”の違いを明らかにし、両者の注視点の違いを考察していきたい。

3. 4. 1. 1 “要～了”の構造

本節では“要～了”について見ていきたい。“要～了”の構成要素である“要”と“了”がそれぞれどのような役割を持っているのか見ていきたい。大西(1998)は“要～了”の“要”を助動詞として扱い、“了”を新たな状況の出現を表す語気助詞として扱っている。そしてこの両者が合わさることで将然の意味が生まれると説明している。以下、大西(1998)の挙げた例を用いて説明したい。

(50) a. 悟空 要 过 桥。

悟空 つもり 渡る 橋

[悟空は橋を渡るつもりだ]

b. 悟空 要 过 桥 了。

(大西 1998 : 5)

悟空 しよう 渡る 橋 LE

[悟空は橋を渡ろうとしている。]

上記の (50) a において“要”は意志を表す助動詞であり、その意志は悟空自身の意志である。ここでは話し手が悟空に代わり、悟空の意志を表している。次に (50) b では新たな状況を表す“了”が伴われることにより、「悟空が橋を渡るつもり」という意志が新たに話し手の判断として発生する。つまり「悟空が橋を渡るつもり」という判断材料を話し手が観察し、その話し手の新しい判断が発生の“了”で表されている。例えば、悟空がまさに橋に一步足を踏み入れようとしている様子、つまり判断材料を話し手が観察し、話し手に「悟空が橋を渡るつもり」という新しい判断が発生したということである。この悟空自身の意志を表す“要”と話し手の新たな判断の発生を表す“了”が共に用いられることにより、「橋を渡ろうとしている」という将然の意味が生じる。

3. 4. 1. 2 “快”“就”

本節では“就”、“快”の性質について見ていきたい。まず“就”の持つ意味について説明していきたい。先行研究では“就”を次のように説明している。呂叔湘(1980:315)は“就”を“表示很短时间以内即将发生”「短い時間内にまもなく発生することを表す」、候学超(1998)は“就”を“表示很短时间内”「短い時間内であることを表す」と説明している。両氏が挙げる動作の短時間を表す“就”は以下の例である。

(51)a. 一直 浮动 在 眼窝里的 满眼泪 刚 流下来,

ずっと 漂う で 瞼の内側の 目いっぱい涙 したばかり 流れ出す

就 马上 被 她 擦去 了。

JIU すぐに よって 彼女 拭う LE

[ずっと瞼の内側で漂っていた目いっぱいの涙は流れ出してすぐに彼女に拭われた]

b. 说 了 声 谢谢 就 出了门, 临 出门 前 那女的 又 叫住 了 我。

言う LE 声 ありがとう JIU 外出する 近づく 外出する 前 あの女 また 呼び止める LE 私

(北大)

[「ありがとう」と言って、門を出ようとする、あの女がまた私を呼び止めた。]

(52)我 明天 就 去 买 火车 票, 我 要 到 云南 清绵 去 找 她。《玉》

私 明日 JIU 行く 買う 列車 チケット私 YAO まで 雲南 清綿 行く 探す 彼女

[私は明日、列車のチケットを買いに行く。雲南の清綿まで彼女を探しに行くんだ。]

(51)a において“就”は“眼泪刚流下来”から“被她擦去了”までの動作が短い間に行われること、(51)b においては“就”が“说了声谢谢”から“出了门”までの動作が短い間に行われていることを表している。(52)は“就”が発話時間から“明天”までの時間が短いことを表している。以上の意味は“就”の“基本意义”「基本義」から派生したものである。以下、詳しく説明していく。“就”の“基本意义”「基本義」について周守晋(2004)は歴史的な意味の変移から、“限止”であると指摘している。“限止”とは範囲、場所、時間を限定することである。以下の例を参照されたい。

(53)师 接得棒子, 则 便 抱倒 大愚, 乃 就 其背, 殴 之 数拳。(周守晋 2004:125)

先生 取る 棒 ZE すぐに 押し倒す 愚か者 そして JIU 背中 殴る これ 数回

[先生は棒を持って、愚か者を押し倒して、その背中を数回殴った。]

(54)老夫妻 见 女儿, 就 当下 寻死觅活。(周守晋 2004:125)

老夫婦 会う 娘 JIU すぐに 自殺をほのめかす

[老夫婦は娘に会うとすぐに自殺をほのめかした。]

(55)我 今日 就 参 你 在 本县 作 个 都头, 如何? (周守晋 2004:126)

私 今日 JIU 推薦する あなた で 本籍のある県 なる GE 都頭 どうだ

[私は今日、あなたを私の本籍のある県で都頭(役職名)に推薦してやろうか。どうだ?]

(53)において“就”は“殴”という動作の場所を“大愚”の所属成分である“其背”に“限止”している。また(54)では“见”という動作の後に“寻死觅活”が起これり、“就”は VP, 就 VP2 の形で VP2 が達成される時間を“限止”している。さらに(55)では X (時間) 就 VP の形で X は VP が達成される時間の起点を表している。つまり“就”が VP の達成される時間の起点を“限止”している。“就”の“基本意义”「基本義」は“限止”であるということは“就”に共通して“限止”の機能が存在するということである。上記で挙げた(51)(52)も“限止”の機能を有している。例えば(51)a においては“被她擦去了”の達成時間が、(52)では“去”の達成時

間が“就”によって“限止”されている。つまり(51)(52)は“就”が動作から次の動作の達成までの時間を“限止”することで、動作から次の動作への変移が短時間であることを表している。これは“就”が注視点を動作や状態の終点に置くことにより、短時間を表しているということである。

次に“快”について見ていきたい。“快”には形容詞としての用法と副詞としての用法が存在する。時間的な意味を持つ形容詞的用法として呂叔湘(1980:339)は“速度高”「速度がはやい」、「赶快」「はやく」を挙げている。また副詞としての用法は“表示时间上接近;很快就要出现某种情况。一般在句末用‘了’”「時間的に近付いていることを表す。まもなくある状況が出現することを表す。一般的に文末に“了”を用いる。」と説明している。つまり呂叔湘(1980:339)は副詞の“快”は将然の意味を表すと説明している。しかしこの将然の表現は文末に“了”を用いてはじめて将然の意味を表すものであるため、“快”自身に将然の意味があるとは言えない。“快”が“要～了”に与える意味を考えるにあたって、本節では“快”の意味が先行研究においてより詳しく分析されている形容詞的用法を詳しく見ていきたい。形容詞としての“快”が使用された例は以下である。

(56) 时间 过 得 真 快。(北大)

時間 過ぎる DE 本当に はやい

[時間が過ぎるのは本当にはやい。]

上記の例において“快”は時間が過ぎる速度がはやいことを描写している。このように“快”がはやさを表す場合、以下のような連用修飾的な用法、つまり副詞的な用法も存在する。

(57)a. 用 小刀 划开了 绑着 她的绳子, 让她快跑去告诉警察。(北大)

で ナイフ 切る LE 縛る ている 彼女の縄 させる 彼女 はやく走る 行く 伝える 警察

[ナイフで彼女を縛っていた縄を切り、はやく走って警察に伝えに行かせた。]

b. 频频 向 我们 使 眼色, 让我们快逃。(北大)

しきりに へ 私たち 使う 目配せ させる 私たち はやく 逃げる

[しきりに私たちへ目配せをし、私たちにはやく逃げさせようとした。]

(58) a. 夏侯彬 远远 听到 谈笑声, 快走几步, 准备 加入 其中。(北大)

夏侯彬 遠く 聞く 談笑する声 速く 歩く 何歩 準備する 入る その一団

[夏侯彬は遠くで談笑する声を聞き、何歩かはやく歩き、その一団に入る準備をした]

b. 乔尼 骑 着 马 快 跑 一 会 儿 , 再 慢 跑 一 会 儿 。 (北 大)

ジョニー 乗 っ て い る 馬 は や く 走 る 少 し さ ら に ゆ っ く り 走 る 少 し

[ジョニーは馬に乗りながらはやく走ったり、遅く走ったりする。]

(57)は“快”が後続する“跑”、“逃”を修飾し、これらの動作の始動の速度を描写している。(58)は“快”が後続する“走”、“跑”の動作そのもののはやさを描写している。以上から“快”は副詞的に用いられると述語の始動のはやさ、または述語のはやさを描写するということがわかる。以上のような“快”の性質は“就”とは異なり、終点を注視点とし、時間の短さを表すわけではない。両者の違いは以下のような命令文に表れる。

(59) 你 在 此 不 可 久 留 , 今 夜 就 离 开 吧 。 (北 大)

あなた で こ こ 可 能 な 長 く 滞 在 す る 今 夜 今 夜 離 れ る し ょ う

[あなたはここに長く滞在してはいけません。今夜、すぐに離れましょう。]

(60) 珠 儿 别 嚷 , 飞 天 盟 的 人 正 在 四 处 追 杀 我 ,

珠 儿 する な わ め く 飛 天 盟 の 人 間 ま さ に 各 地 追 う 殺 す 私

你 们 快 离 开 , 不 然 被 人 发 现 可 来 不 及 了 。 《 佛 》

あなた 達 は や く 離 れ る で な け れ ば さ れ る 発 見 す る 本 当 に 間 に 合 わ な い LE

[珠儿、わめくな。飛天盟の人間がまさに各地で私を追い、殺そうとしている。あなた達ははやく離れなさい。でなければ発見され、本当に間に合わなくなってしまう。]

上記の(59)(60)は“就”、“快”を用いた命令文である。(59)の“就”は動作、状態の発生時もしくは発話時から動作、状態の終点までの短い時間を表している。そして命令文であるため発話時から“离开”という動作の終点の「今夜」までの時間が短いことを要求している。次に(60)の“快”は後続する述語の始動の速度を描写する性質を持つため、“离开”の動作をはやく行うように要求している。また“快”は上記のような動作の始動を表す例以外にも以下のような動作そのもののはやさを促す命令文に用いられる。

(61) 快 点 儿 跑 !

は や く 走 る

[はやく走れ!]

上記の例は“跑”の動作そのものをはやく行うことを要求している。以上からわかるように“快”が“就”と異なるところは動作の始動のはやさ、動作そのもののはやさを描写するにすぎず、“就”のように終点を明らかにしないことである。つまり注視点の観点から説明すると“就”は動作の終점에注視点が置かれるのに対して、“快”はある動作の始動や動作のはやさそのものの描写に注視点が置かれるということである。このような“快”、“就”が持つ注視点の違いは“就要～了”、“快要～了”においても現れる。次節で見ていきたい。

3. 4. 1. 3 “就要～了” “快要～了” と注視点

本節では“就要～了”、“快要～了”の違いを前節で説明した“快”、“就”の注視点の違いから考察していきたい。

(62) 他 就要 回国 了。

彼 間もなく 帰国する LE

[彼は間もなく帰国しようとしている。]

上記の例ではまず“他”が“回国”しようとしている。これが助動詞“要”で表される。次にそのような状態を話し手が観察し、“要回国”という新しい状況が発生したと認識し、“了”が用いられ、“要回国了”という将然表現となる。ここに“就”が用いられることによって、(62)は“回国”という動作が達成されるまでの終点が明確になり、参照点から終点の隔たりが短いことが表される。つまり注視点が終점에置かれる。このような注視点の特徴を持つため“就要～了”は以下のような未来に確実に起こる出来事によく用いられる。

(63)a. 我们 在这儿 住了 已经 两年 了, 明天 我们 就要 搬家 了。(北大)

私たち に ここ 住む LE 既に 二年 LE 明日 私たち 間もなく 引越しをする LE

[私たちはここに住んで既に二年になります。明日、間もなく引越しをします。]

b. 今年, 我 已 虚岁 六十, 明年 就要 退休 了。(北大)

今年 私 既に かぞえ年 60 来年 間もなく 退職する LE

[今年、私はかぞえ年60になります。来年、間もなく退職します。]

c. 钱其深 强调, 还有 275 天 香港 就要 回归 祖国 了。(北大)

錢其深 強調する あと 275日 香港 間もなく 還る 祖国 LE

[錢其深は強調する。あと275日で香港は間もなく祖国に還る。]

上記の例は時間詞“明天”、“明年”と時間量を表すフレーズ“还有275天”が「将然のAspect」と共起した例である。時間詞や時間量を表すフレーズは未来に起こることが確実でなければならない。“就要～了”の構成要素である“就”は動作、状態の終点に注視点を置く。これは言い換えると動作や状態の達成の確実性を表している。ゆえに到達時間を表す時間詞、開始時から到達時の時間量を表すフレーズと相性が良い。本章ではこのような“就要～了”の達成時を確実にする性質を現実性の強い「将然のAspect」としたい。次に“快”の注視点の特徴が「将然のAspect」に与える特徴を見ていきたい。

(64) 他 快要 回国 了。

彼 間もなく 帰国する LE

[彼はまもなく帰国する。]

上記の例において“他”が“回国”しようとしている。これが助動詞“要”で表される。次にそのような状態を話し手が観察し、“要回国”という新しい状況が発生したと認識し、“了”が用いられ、“要回国了”という将然表現ができる。そしてこれに“快”が加わることにより、動作そのものがはやいこと、動作の始動の速度がはやいことが表される。つまり注視点が動作の始動のはやさや動作の速度に置かれる。“快要～了”は構成要素“快”の性質により、以下のような例文によく用いられる。

(65)a. 我 激动 得 心 都 快要 跳出 喉咙。(北大)

私 興奮する DE 心臓 さえも あと少し 飛び出す 喉

[私は心臓があと少しで飛び出しそうになるくらい興奮した。]

b. 汉子 用 手指 着 自己的 脑袋, 急 得 快要 疯了。(北大)

漢子 で 指 指す ている 自分の 頭 焦る DE あと少し 狂う LE

[漢子は指で自分の頭を指し、焦って気があと少しで狂いそうだった。]

“快要～了”は(70)のように様態補語の“V 得”の後続成分としてよく用いられる。様態補語はその名前にあるようにVの様態を描写するものである。“快”は動作の始動のはやさや動作そのもののはやさや動作の速度を描写するものであり、様態補語のような“V 得”以降の様態を描写する表現と相性が良い。また上記で挙げた(67)の例は“快要～了”に置き換えることはできない。

(66)a. *我们 在这 住了 已经 两年 了, 明天 我们 快要 搬家 了。

私たち に ここ 住む LE 既に 二年 LE 明日 私たち 間もなく 引越しをする LE

b. *今年, 我 已 虚岁 六十, 明年 快要 退休 了。

今年 私 既に かぞえ年 60 来年 間もなく 退職する LE

c. *钱其深 强调, 还有 275天 香港 快要 回归 祖国 了。

銭其深 強調する あと 275日 香港 間もなく 還る 祖国 LE

これは構成要素である“快”が速度もしくは速度の始動のはやさを描写するにすぎず、終点を明確にすることができないことが原因であると言える。以上のことから“快要～了”は“快”の持つ性質により、動作の始動、動作そのもののはやさに注視点を置く「将然のアスペクト」と言える。本章ではこのような“快要～了”を描写性の強い「将然のアスペクト」としたい。次節では実現性の強い“就要～了”と描写性の強い“快要～了”がアスペクト副詞との共起にどのような影響を及ぼすのか見ていきたい。

3. 5 アスペクト副詞と将然のアスペクト

前章では主に“要～了”の性質と“就”、“快”によって影響を受けた“就要～了”、“快要～了”の性質とその差異について探った。本節では“就要～了”、“快要～了”の特徴がアスペクト副詞との共起において異なった様相を見せる原因を探っていきたい。アスペクト副詞と“就要～了”、“快要～了”との異なった共起状況を再掲する。

(1)' a. 天 已经 快要 亮 了。(北大)

空 既に 間もなく 明ける LE

[空がすでに間もなく明けようとしている。]

b. *天 已经 就要 亮 了。

空 既に 間もなく 明ける LE

(2)' a. 我 的 梦想 马上 就要 实现 了。(北大)

私 の 夢 すぐに 間もなく 実現する LE

[私の夢がすぐ間もなく実現する]

b. ??我 的 梦想 马上 快要 实现 了。

私 の 夢 すぐに 間もなく 実現する LE

(3)' a. 看 了 一眼 之后, 心里 明白, 危险 立刻 就要 来到 了。(北大)

見る LE 一目 後 心 わかる 危険 すぐに 間もなく やって来る LE

[一目見た後、わかった。危険がすぐに間もなくやって来ると。]

b. ??看 了 一眼 之后, 心里 明白, 危险 立刻 快要 来到 了。

見る LE 一目 後 心 わかる 危険 すぐに 間もなく やって来る LE

(4)' a. 一个 寒冷的 下午, 天色 阴暗, 眼看 就要 下雪 了。(北大)

ある 寒い 午後 空模様 暗い すぐ そう 雪が降る LE

[ある寒い午後、空模様は暗く、すぐに雪が降りそうだった。]

b. ??一个 寒冷的 下午, 天色 阴暗, 眼看 快要 下雪 了。

ある 寒い 午後 空模様 暗い すぐに そう 雪が降る LE

アスペクト副詞“已经”は“快要～了”と共起可能であるが、“就要～了”とは共起できない。アスペクト副詞“马上”、“立刻”、“眼看”は“快要～了”とは相性はあまり良くないが、“就要～了”とは問題なく共起できる。以下の節ではアスペクト副詞“已经”、“马上”、“立刻”、“眼看”の注視点の特徴を探り、“就要～了”、“快要～了”に及ぼす影響を見ていきたい。

3. 5. 1 “已经”

本節では副詞“已经”と“就要～了”、“快要～了”の共起現象を見ていきたい。繰り返しになるが、副詞“已经”は“就要～了”とは共起できない。しかし同じ「将然のアスペクト」の“快要～了”とは共起可能である。これは“已经”が“就要～了”、“快要～了”に与える注視点の影響が原因となる。以下、“就要～了”、“快要～了”と“已经”の関係を注視点を絡め考察していきたい。

“已经”は3. 2節で挙げたアスペクト副詞の分類の中では「完了のアスペクト」に属するものである。以下の例からわかるように“已经”は過去、現在、未来のいずれの時制においても動作の完了を表す。

(67) 她 在 上 大 学 的 时 候 ， 爱 上 了 他 们 的 辅 导 员 老 师 。 老 师 已 经 结 婚 了 。

彼女 で 大学入学 の 時 愛する LE 彼らの 指導教員 先生 先生 既に 結婚する LE

[過去] 《浪》

[彼女は大学に入学した時に彼らの指導教員を愛するようになった。先生は既に結婚していた。]

(68) 他 现 在 已 经 和 我 断 绝 了 那 种 最 亲 近 的 关 系 ，

彼 今 既に と 私 断つ LE あの 最も 親密な 関係

我们 充其量 现在 是 一个 要好的 朋友 罢了。[现在] 《你》

私たち せいぜい 今 SHI 一つ 仲が良い 友達 すぎない

[彼は今、私とあの親密な関係を絶ってしまい、私たちはせいぜい仲が良い友達にすぎない。]

(69) 希 望 回 来 的 时 候 ， 我 们 的 小 小 已 经 长 大 成 人 ， 也 找 到 了 一 个 好 婆 家 。

望む 帰る 時 私たちのチビちゃん 既に 成長する 成人 も 見つける LE 一つ 良い嫁ぎ先

[未来] 《三》

[私たちのチビちゃんは既に成長し、良い嫁ぎ先も見つけていることを望む。]

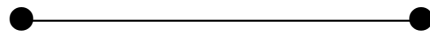
上記の(67)において“已经”は過去、(68)は現在、(69)は未来の時制に用いられている。これらの例において“已经”は「完了のアスペクト」を表すと共に参照点以前に起こった行動や現象が参照点において持続していることを表している。例えば(71)においては“结婚”は参照点以前に起こり、参照点においてそれが持続している。このような“已经”の性質は马真(2003:27)が“强调句子所说的事情、情况在说话之前，或某个行为动作之前，或在某个特定的时间之前就成为事实，其影响与效应具有延续性和有效性。”「文章の中の事柄、状況が発話の前、もしくはある動作の前、またもしくはある特定の時間の前に完成したことを強調するものであり、その影響と効果には継続性と有効性がある」と指摘している。この“已经”の性質を図にすると次のようになる。

(70) 风 已 经 停 了 。

風 既に 止まる LE

図1

風が止まっている状態(c)



風が止まる(a)

発話時(参照点)(b)

「風が止まる」という現象が過去の a 点で起こり、その状態が発話時 (b 点) において持続している。そしてその状態 c を“已经”は強調している。以上からわかるように“已经”は動作や状態が参照点以前に発生し、それが持続することを表す性質を持つ。これはつまり話し手が注視点を参照点以前に発生した状態の持続に置くということである。この“已经”の性質は「将然のアスペクト」にどのように作用するのであろうか。以下、詳しく見ていきたい。

(1) / a. 天 已经 快要 亮 了。(北大)

空 既に 間もなく 明ける LE

[空がすでに間もなく明けようとしている。]

上記の例において“已经”は“亮了”「明けそう」な状態が参照点以前から起こっており、それを強調している。つまり「空が明けつつある」という初期段階が参照点以前に起こり、“已经”はそれが持続していることを強調している。このような将然表現を状態として捉える文脈は描写性の強い“快要～了”と相性が良い。

(71)a. 藏经楼 已经 快要 竣工 了。《阳》

藏经楼 すでに 間もなく 竣工する LE

[藏经楼はもう間もなく竣工する。]

b. 棺木 已经 快要 烂尽 了, 只 剩下 一堆 木丝 和 小木片。(中日)

柩 すでに 間もなく 腐る LE だけ 残す 一山 木屑 と 木片

[柩がもう間もなく腐りきってしまいそうで、一山の木屑と木片が残っているだけだった。]

上記の(75)において“已经”は後続する“快要～了”を状態として捉えている。例えば(71)aでは“快要竣工了”「まもなく竣工する」という初期段階が過去に起こり、その状態が続いている。(71)bにおいても“已经”に後続する成分“快要烂尽了”の初期段階が参照点以前に起こり、その状態が継続している。以上のように“已经”の注視点の特徴と“快要～了”の注視点の特徴が一致して、両者は共起可能となる。しかし“就要～了”は注視点を動作や状態の終点に置く実現性の強い「将然のアスペクト」である。そのため“已经”に後続し、状態を表すには不適切である。

(72) a. *藏经楼 已经 就要 竣工 了。

藏经楼 すでに 間もなく 竣工する LE

b. *棺木 已经 就要 烂尽 了, 只 剩下 一堆 木丝 和 小木片。

枢 すでに 間もなく 腐る LE だけ 残す 一山 木屑 と 木片

3. 5. 2 “马上”、“立刻”、“眼看”

次に“马上”、“立刻”、“眼看”と「将然のアスペクト」について見ていきたい。前述したようにこれらは“就要～了”と共起する方が相性が良い。“快要～了”はこれらの副詞とはあまり相性が良くない。以下の図を参照されたい。

図表 2

	马上	立刻	眼看
就要～了	691	76	287
快要～了	0	0	10

上記の図は《北京大学语料庫》における“就要～了”、“快要～了”と副詞“马上”、“立刻”、“眼看”が共起した件数を表したものである。上記の図からわかるように“就要～了”の方が“快要～了”より“马上”、“立刻”、“眼看”と共起している件数が圧倒的に多い。尚、“要～了”は“马上”、“立刻”、“眼看”と問題なく共起できる。

(73) 我 的 梦 想 马上 要 实现 了。(北大)

私 の 夢 すぐ に しよう 実現する LE

[私の夢はすぐに実現しようとしている。]

(74) 看 了 一 眼 之 后, 心 里 明 白, 危 险 立 刻 要 来 到 了。(北大)

見る LE 一 目 後 心 わかる 危険 すぐ に 間もなく やって来る LE

[一目見た後、わかった。危険がすぐに間もなくやってくる。]

(75) 一 个 寒 冷 的 下 午, 天 色 阴 暗, 眼 看 要 下 雪 了。(北大)

ある 寒い 午後 空模様 暗い すぐ そう 雪が降る LE

[ある寒い午後、空模様は暗く、すぐに雪が降りそうだった。]

これは注視点の特徴が「将然のアスペクト」に影響を与えるためである。繰り返しになるが“马上”、“立刻”、“眼看”の注視点は動作の起点と終点の隔たりに置かれる。陆俭明, 马真(1999:108)も“马上”、“立刻”、“眼看”のような“短时类副词”の性質を“表示某行为动作在说话之后或另一行为动作后紧接着进行、发生或完成, 强调相隔的时间很短”「ある動作が発話の後、もしくは他の動作の後に続けて行われ、発生、完成することを表し、この隔たった時間が短いことを強調する」と指摘している。以下の例を参照されたい。

(76) 有一天 他的孩子被开水烫了, 他 马上 去了 医院。(北大)

ある日 彼の子どもよって お湯 やけどする LE 彼 すぐ 行く LE 病院

[ある日、彼は子どもがお湯でやけどしてしまい、すぐに病院に行った。]

(77) 喷出来 的时候 碰到 冷 空气 或 海水, 立刻 凝结 了。(北大)

噴き出す 時 あたる 冷たい 空気 か 海水 すぐに 固まる LE

[噴き出した時に冷たい空気か海水にあたり、すぐに固まった。]

上記の(76)では“马上”は“去”という動作がなされていない状態から“去”という動作がなされた状態までの隔たった時間が短いことを表している。また(77)では“立刻”がまだ“凝结”していない状態から“凝结”した状態の間の時間が短いことを表している。このように“短时类副词”は起点と終点の隔たりの短さに注視点を置くため、以下のような達成時が曖昧で達成されるまで長い時間を有する動詞と共に用いることはできない。

(78)a. *为 国家 马上 发展, 年轻人 要 努力。

ため 国家 すぐ 発展する 若者 すべき 努力する

b. *为 国家 立刻 发展, 年轻人 要 努力。

ため 国家 すぐ 発展する 若者 すべき 努力する

上記の例では“发展”の達成時が明確にされていなく、また“发展”は達成されるまでに一定の時間が必要となる。上記で説明したような性質を持つ“马上”や“立刻”を用いることができない。このような性質を持つ副詞は注視点を動作、状態の終点に置く“就要～了”と相性が良い。しかし終点を明らかにすることなく、注視点を始動のはやさや速度のはやさに置く描写性の強い“快要～了”とは相性が良くない。“快要～了”の構成要素である“快”は“发展”と用いることができる。

(79)为 国家 快 发展, 年轻人 要 努力。(北大)

ため 国家 はやく 発展する 若者 すべき 努力する

[国家がはやく発展するために若者は努力すべき。]

“快”は“马上”、“立刻”、“眼看”とは異なり、注視点を動作、状態の終点におくことはない。快”の注視点は動作や状態の始動のはやさ、もしくは速度のはやさである。ゆえに上記のような達成時を明確にしていなく、且つ達成されるまでに一定の時間が必要となる“发展”と共に用いることができる。このような“快”の性質に影響を受けた“快要～了”は“马上”、“立刻”、“眼看”とは相性が悪いということがわかる。

以上からわかるように「将然のAspect」“就要～了”、“快要～了”は“马上”、“立刻”、“眼看”との共起において異なった様相を見せる。それは“就要～了”、“快要～了”の構成要素である“就”、“快”の注視点の特徴が原因となる。

3. 6 終わりに

以上、副詞がAspect構造に与える影響の分析を行ってきた。本章ではAspectの中でも「将然のAspect」を取り上げ、これに共起する副詞から「将然のAspect」の“就要～了”、“快要～了”の違いを探ってきた。以上の分析をまとめると“就要～了”はその構成要素である“就”の注視点の性質の影響を受けており、起点と終点の隔たりに重きを置く実現性の強い「将然のAspect」である。そのため時間詞や時間量、ある動作と次の動作の隔たりが短いことを強調する“短时类副词”の副詞と相性が良い。一方、“快要～了”は構成要素の“快”の注視点の性質の影響を受けて、描写性の強い「将然のAspect」である。そのため完了を表すと共に状態が持続していることを表す“已经”と相性が良い。「将然のAspect」も3.3節で挙げた「完了のAspect」“过”と“来着”、「進行のAspect」“在”と“正”、“正在”のようにAspect副詞と共起することによって、同じAspect間において異なった注視点を持つということが明らかになった。

4. 副詞とモダリティ

4. 0 本章の内容

本章ではモダリティ副詞“太”、“好”と同じくモダリティ成分である助動詞“愿意”、“想”の間に見られる共起制限について探っていく。以下の例を参照されたい。

(1)a. 我 今天 非常 高兴, 我 太 想 得到 这块金牌,

私 今日 非常に 嬉しい 私 とても たい 手に入れる この金塊

我 准备 了 很 长 时间, 终于 成功 了。(北大)

私 準備する LE とても 長い 時間 ついに 成功する LE

[私は今日、非常に嬉しい。私がとても手に入れたかったこの金塊が長い時間準備してついに成功した。]

b. ?我 今天 非常 高兴, 我 太 愿意 得到 这块金牌,

私 今日 非常に 嬉しい 私 とても たい 手に入れる この金塊

我 准备 了 很 长 时间, 终于 成功 了。

私 準備する LE とても 長い 時間 ついに 成功する LE

(2)a. 啊, 我 思念 你, 好 想 见 她! (北大)

ああ 私 想う あなた すごく たい 会う 彼女

[ああ、私はあなたを思っています。彼女にすごく会いたい。]

b. *啊, 我 思念 你, 好 愿意 见 她!

ああ 私 想う あなた すごく たい 会う 彼女

助動詞“愿意”、“想”は「～したい」という話し手の願望、意思を表す表現である。そして“太”と“好”は共に程度の高さを表すモダリティ副詞である。上記からわかるように“想”は“太”、“好”と共起することができるが、“愿意”とは状況が異なる。“愿意”は“好”とは共起できず、また“太”とも多くの場合で共起が難しい。しかし次の例のように“太”は“愿意”と共起できる場合もある。

(3) 我说 保送 还 考 不 考 哇,

私 言う 推薦する さらに 受験する BU 受験する WA

公社 说 就 考考 语文 和 政治, 我说我太愿意走啦。 (北大)

公社 言う JIU 受験する 国語 と 政治 私 言う 私 とても たい 行く LA

[私が推薦されるのだから更に受験する必要があるのかと言ったら、公社は国語と政治を受験するように言った。私はとても行きたいですと言った。]

上記のように“愿意”は“太”と共起することから、“想”の方が“太”と相性が良いということがわかる。それは言語資料において共起数の違いからわかる。北京大学のCCL語料庫において“太”+“愿意”の例は3例なのに対して、“太”+“想”は95例が見つかった。以上からわかるように“太”、“好”は“想”と共起しやすく、“愿意”と共起することができないもしくは共起する例が非常に少ない。本章では“太”、“好”と“愿意”、“想”の共起制限の原因をさぐる。分析手順はまずモダリティの定義を明らかにし、モダリティ副詞としての“太”、“好”の性質、助動詞“愿意”、“想”のモダリティの性質を考察し、上記で挙げた共起状況の違いの原因を探っていく。

4. 1 モダリティの定義と分類

4. 1. 1 モダリティの定義

本節ではモダリティの定義について説明していきたい。益岡(1991:30)はモダリティについて次のように指摘している。

「モダリティ」という概念を規定するための基本となるのは、主観性の言語化されたものであるという見方である。言い換えれば、客観的に把握される事柄ではなく、そうした事柄を心に浮かべ、ことばに表す主体の側に関わる事項の言語化されたものである、という見方である。ここでは、このような見方に立ち、広義の「モダリティ」を、「判断し、表現する主体に直接関わる事柄を表す形式」と規定しておきたい。(益岡1991:30)

以下は益岡(1991)が挙げる例である。

(4)偶然ではないな。はっきり作意があるよ。(益岡 1991:110)

(5)哀しいね。(益岡 1991:80)

上記の(4)では主体が「作意がある」という真偽に対して判断を下している。つまり(4)には主体の主観的な判断が存在する。また(5)は話し手が「哀しい」という感情を表明し、主体の主観を表している。(4)においてモダリティの要素となるものは「よ」である。また(5)においてモダリティの要素となるものは「ね」である。これらを除いても文として伝達する情報量は変わらない。

(6) 偶然ではないな。はっきり作意がある。

(7)哀しい。

以上からわかるようにモダリティとは主体の主観的な判断や態度を表すものである。ゆえに(4)(5)のようにモダリティを表す要素は文の命題とは関係なく、文として与える情報量に影響を与えない。さらにモダリティは主体の主観を表すという点ではムードと同じ意味を持つと言える。近藤(1991:228)はモダリティとムードの違いを以下のように指摘している。

『ムード』は動詞の活用に結びつけた文法論よりの概念と指摘し、『モダリティ』はより広くむしろ意味論までも含む概念としてとらえるのが一般的であろう。(近藤 1991:228)

上記の指摘はつまりモダリティとムードは主体の主観を表すという意味においては同じ性質を持つが、どのように主観を表すかという点で異なった様相を見せるということである。本章ではモダリティを文の命題を表さず、話し手の主観的な判断を表すものとし、以下、中国語のモダリティ“想”、“愿意”とモダリティ副詞“好”、“太”の共起制限を探っていく。次節では本章におけるモダリティの分類を示し、その分類における“想”、“愿意”、“好”、“太”の位置を見ていく。

4. 1. 2 モダリティの分類

益岡(1991:30)は前節で挙げたモダリティの定義を基にモダリティを「伝達態度のモダリティ」

「ていねいさのモダリティ」「表現類型のモダリティ」「真偽判断のモダリティ」「価値判断のモダリティ」「説明のモダリティ」「テンスのモダリティ」「みとめ方のモダリティ」「取り立てのモダリティ」に分類している。

次に中国語におけるモダリティの扱いを考察する。中国語においてモダリティは“情态”もしくは“语气”として取り上げられている。前述したように「モダリティ」は意味論の側面から見る主体の主観的な態度であり、「ムード」は文法論の側面から見る主体の主観的な態度である。しかしこのような両者の区別は英語学に基づいた「モダリティ」「ムード」の定義であり、中国語の“情态”、“语气”の特性を個別的に見ると、必ずしも“语气”が文法的側面であり、“情态”が意味論的側面であるとは限らない。唐小薇, 李小军(2007)は中国語において“语气”は英語学の定義に基づいた「ムード」より大きな概念であり、むしろ英語学の「モダリティ」に近い特徴を持つと指摘している。本章でもこの指摘を支持し、中国語における「モダリティ」を“情态”、“语气”の両方を含め、分析を行っていききたい。

次に中国語のモダリティの分類について見ていきたい。中国語においてモダリティは賀阳(1992:59)が“语气是通过语法形式表达的说话人针对句中命题的主观意识”「モダリティは文法的な形式を以て表される話し手の命題に対する主観的な意図である。」と指摘している。この定義を基に朱冠明(2005)は主に助動詞を取り上げてモダリティの分類を行っている。賀阳(1992)はモダリティを助動詞だけではなく助詞や副詞なども取り入れ、より詳細な分類を行っている。以下、賀阳(1992)の分析を詳しくみていきたい。賀阳(1992)はモダリティを“语气”と表し、“功能语气系统”、“评判语气系统”、“情感语气系统”の3つに分類している。これらをそれぞれ「文機能タイプ」、「評価・判断タイプ」、「感情タイプ」と訳し、以下、詳しく見ていく。

「文機能タイプ」とはコミュニケーションの中で必要となる言語機能のことであり、主体がある文において到達しようとするコミュニケーション上の目的を表すものである。

(8)他 昨天 到 上海 去 了。 (贺阳 1992:60)

彼 昨日 に 上海 行く LE

〔彼は昨日、上海に行った。〕

(9)你 找 谁? (贺阳 1992:60)

あなた 探す 誰

〔あなたは誰を探しているのですか?〕

(10)难道 这 是 偶然的 吗? (贺阳 1992:60)

まさか これ SHI 偶然 MA

〔まさかこれは偶然ではあるまい？〕

(11) 您 先 休息 一下。(贺阳 1992:60)

あなた 先 休む ちょっと

〔先にちょっと休んでください。〕

(12) 这个 消息 太 令人 高兴 了! (贺阳 1992:60)

この ニュース とても させる 人 喜ぶ LE

〔このニュースはとても人を喜ばせた。〕

贺阳(1992)は「文機能タイプ」をまず(8)のような主体が聞き手に情報を伝達する“陈述语气”「陳述のモダリティ」と主体が聞き手に対して情報を引き出そうとする“疑问语气”「疑問のモダリティ」に分類し、その下位に(9)のような“询问语气”「尋問のモダリティ」、(10)のような“反诘语气”「反駁のモダリティ」を置いた。また(11)のように主体が聞き手に対して何かを要求する“祈使语气”「命令のモダリティ」、(12)のように主体が自らの感情を表す“感叹语气”「感嘆のモダリティ」を定めた。このように陳述文、疑問文、反語文、命令文、感嘆文のような文機能を一つのモダリティとして捉えたものが「文機能タイプ」である。次に「評価・判断タイプ」について見ていきたい。「評価・判断タイプ」とは話し手の会話に対する態度、評価、判断を表すものである。「評価・判断タイプ」の下位には“认知语气”「認識のモダリティ」、 “模态语气”「推測・判断のモダリティ」、 “履义语气”「現実態度のモダリティ」、 “能愿语气”「能力・意志のモダリティ」の4つがあると指摘している。まず“认知语气”「認識のモダリティ」から見ていきたい。

(13) 你 的 所作所为 太 令人 失望 了! (贺阳 1992:62)

あなた の あらゆる行為 あまりに させる 人 失望する LE

〔あなたのあらゆる行為はあまりに人を失望させた。〕

(14) 这 就是 李 师傅 吧? (贺阳 1992:62)

こちら まさに 李 師匠 BA

〔こちらがまさに李師匠でしょう？〕

上記の(13)(14)は“认知语气”「認識のモダリティ」である。“认知语气”「認識のモダリティ」について贺阳(1992)は次のように指摘している。

認知語気表示說話人对包括句中命題及其他評判語气和情感語气在内的句子内容的确认与不能确认。(賀陽 1992:62)

“認知語気”とは話し手が命題を含む文及びその他の“評判語気”「評価のモダリティ」や“情感語気”「感情のモダリティ」を含んだ文に対して確定、不確定を表すものである。

上記の“認知語気”「認識のモダリティ」の定義に基づくと(13)は“你的所做作为太令人失望了!”という事実に対して話し手の確定が行われている。また(14)では“这就是李师傅”という事実が話し手にとって確信が得られないことを“吧”を用いて表している。以上のように賀陽(1992)は話し手が文に対して確定、非確定の判断を下しているものを“認知語気”「認識のモダリティ」としている。(13)のように話し手が確信を持っているものを“確認語気”「確信のモダリティ」、(14)のように話し手の確信がないものを“非確認語気”「非確信のモダリティ」としている。次に“模態語気”「推測・判断のモダリティ」を見ていきたい。

(15) 看 样子 会 下 雨。 (賀陽 1992:63)

見る 様子 HUI 降る 雨

[様子を見たこと雨が降りそうだ。]

(16) 他 一定 知道 这件事。(賀陽 1992:63)

彼 きっと 知る このこと

[彼はこのことをきっと知る。]

“模態語気”「推測・判断のモダリティ」とは賀陽(1992:62)は“模態語気表示說話人对句中命題的真实性的推測和判断。”「話し手がある文の命題の真偽に対して推測や判断を下しているものである。」と説明している。“模態語気”「推測・判断のモダリティ」の中でも(15)のように話し手により命題が恐らく事実であると推測されているものを“或然語気”「蓋然のモダリティ」、(16)のように命題が真実であると確信されているものを“必然語気”「必然のモダリティ」としている。次に“履義語気”「現実態度のモダリティ」を見ていきたい。

(17) 凡 符合 规定 条件的人 都能(能够) 参加。(賀陽 1992:64)

すべて 合う 規定 条件 人 皆 できる 参加する

[すべての規定条件に合う人は皆、参加できる。]

(18) 你 应该 多 参加 体育活动。(贺阳 1992:64)

あなた すべき 多く 参加する 体を動かす活動

[あなたは体を動かす活動に多く参加すべきだ。]

“履义语气”「现实態度のモダリティ」とは贺阳(1992:63)は“履义语气表示说话人在道义情理或客观环境的约束下, 对实现句中命题所采取的态度”“履义语气”とは話し手が道義上もしくは客観的環境の制約において命題の実現に対して取るべき態度のことである。」と説明している。上記の(17)のような話し手が道義上、客観的環境のもとで実現されることが可能であると考えられるものを“允许语气”「許可のモダリティ」、(18)のように話し手が道義上、客観的環境の基、実現される必要があるまたは実現することができないと判断するものを“必要语气”「必要のモダリティ」としている。次に“能愿语气”「能力・意志のモダリティ」について見ていきたい。

(19) 他 能 挑 二百斤。(北大)

彼 できる 担ぐ 1キロ

[彼は1キロ担ぐことができる。]

(20) 他 总是 愿意 帮助 别人。(贺阳 1992:65)

彼 いつも 喜んで 助ける 他人

[彼はいつも喜んで他人を助ける。]

“能愿语气”「能力・意志のモダリティ」とはある人や物が文中の命題を実現する能力を有するかどうか話し手が判断することまたはある人や物が文中の命題を実現する意志があるかどうかを話し手が判断するものである。(19)のように話し手がある人物や物事に文中の命題を実現する能力があるかどうか判断するものを“能力语气”「能力のモダリティ」、(20)のように話し手が文中の命題を実現する意志があるかどうか判断するものを“意愿语气”「意志のモダリティ」と指摘している。以上、「評価・判断タイプ」に属する“认知语气”「認識のモダリティ」、 “模态语气”「推測・判断のモダリティ」、 “履义语气”「现实態度のモダリティ」、 “能愿语气”「能力・意志のモダリティ」を見てきた。次に「感情タイプ」を表すモダリティを詳しく見ていきたい。「感情タイプ」について贺阳(1992)は以下のように指摘している。

情感语气表示说话人由客观环境或句中命题所引发的情绪或感情。句子的情感语气主要是通过语气副词和叹词表达的。(贺阳 1992:65)

“情感语气”とは客観的環境もしくは命題から引き起こされる情緒や感情である。文中の主体の感情は主に語気副詞や感嘆詞によって表される

贺阳(1992)は上記の定義に基づき、「感情タイプ」を“诧异语气”「意外性のモダリティ」、「料定语气”「断定のモダリティ」、「领悟语气”「承諾のモダリティ」、「侥幸语气”「果報のモダリティ」、「表情语气”「感情モダリティ」の5つの下位分類を行っている。まず“诧异语气”「意外性のモダリティ」から見ていきたい。

(21) 这么 简单的题, 他 竟 做不出来。(贺阳 1992:65)

こんなに 簡単な問題 彼 意外にも できない

[こんなに簡単な問題を彼は意外にもできない。]

“诧异语气”「意外性のモダリティ」の表すモダリティとは話し手の文中の叙述内容に対する意外な気持ちである。上記の例において副詞“竟”「意外にも」を用いることで話し手が意外に思っていることを表している。次に“料定语气”「断定のモダリティ」について見ていきたい。

(22) 他 果然 没有 辜负 大家 对 他的期望。(贺阳 1992:65)

彼 案の定 ない 裏切る みんな 対する 彼の期待

[彼は案の定、みんなの彼に対する期待を裏切ることはなかった。]

“料定语气”「断定のモダリティ」とは文中の命題が話し手の想定内であることを表すモダリティである。上記の例では副詞“果然”「案の定」を用いることで“没有辜负大家对他的期望”ということが話し手の想定通りであることを表している。次に“领悟语气”「承諾のモダリティ」を見ていきたい。

(23) 这 屋子 好久 没有 人 住 了, 难怪 有 这么 多的 尘土。(贺阳 1992:66)

この 部屋 長い間 ない 人 住む IE なるほど ある こんなに 多い ほこり

[この部屋は長い間、人が住んでいない。なるほどこんなに埃が多いわけだ。]

“领悟语气”「承諾のモダリティ」とは文中の命題を話し手が把握していること、または話し手

の新しい発見であることを表すモダリティである。上記の例も副詞“难怪”「なるほど」を用いることで“有这么多的尘土”を話し手が把握していることを表している。次に“侥幸语气”「果報のモダリティ」について見ていきたい。

(24) 幸亏 医生 及时 赶到, 否则 后果 不堪设想。 (贺阳 1992:66)

幸いにも 医者 間に合う 着く でなければ 結果 想像しただけでもたまらない

[幸いにも医者が間に合った。でなければ結果は想像しただけでもたまらない。]

“侥幸语气”「果報のモダリティ」とは話し手が起こりうる悪い結果を避けることができ、幸運に思っていることを表すモダリティである。(24)でも副詞“幸亏”「幸いにも」が用いられ、“医生及时赶到”が幸運であることを表している。最後に“表情语气”「感情モダリティ」について見ていきたい。

(25) 现在的知识分子 太 脏 了。(北大)

現在の知識階級 あまりに 汚い LE

[現在の知識階級はあまりに汚い。]

(26) 我发现 夫人 实在 太 美丽、太 动人 了。(北大)

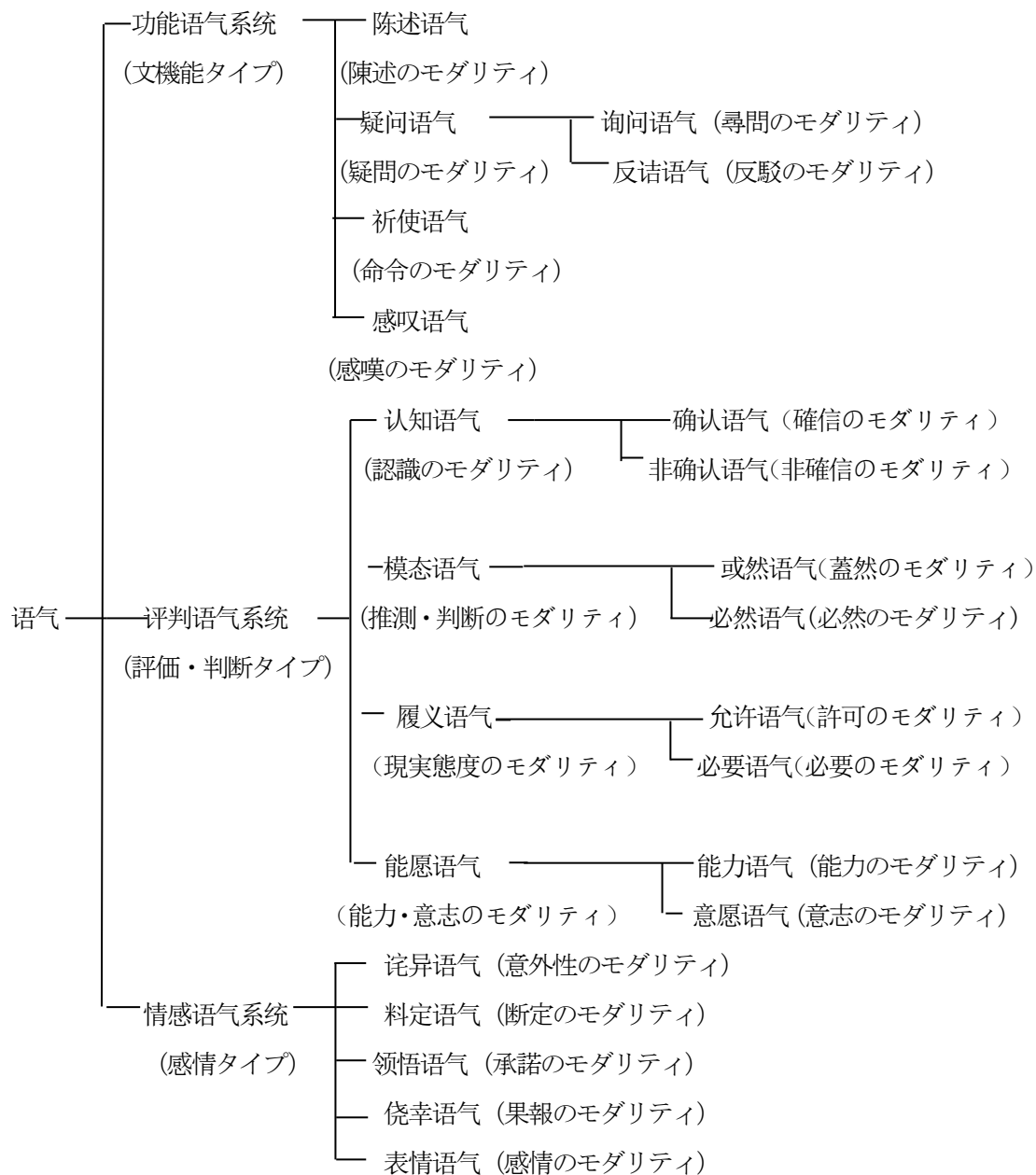
私 気づく 夫人 本当に とても 美しい とても 感動させる LE

[私は夫人が本当に美しくて、人を感動させることに気付いた。]

“表情语气”「感情モダリティ」とは話し手が文中の命題に対して何らかの感情を持つモダリティである。贺阳(1992)はこのモダリティは前述した「文機能タイプ」、「評価・判断タイプ」、「诧异语气」「意外性のモダリティ」、「料定语气」「断定のモダリティ」、「领悟语气」「承諾のモダリティ」、「侥幸语气」「果報のモダリティ」以外の話し手が命題に対して何らかの判断を表すモダリティであると指摘している。上記の例はいずれも程度副詞“太”を用いており、話し手の感情を表している。(25)の方は話し手が“脏”の程度が高いことに関して嫌悪の気持ちを表している。一方、(26)では話し手が“美丽”、“动人”の程度が高いことについて賞賛の気持ちを表している。以上から程度副詞“太”は話し手の程度の高さに対する感情を表すことがあるが、それがマイナスの意味か、プラスの意味かは文脈によって決まるといえることがわかる。

以上、贺阳(1992)が指摘するモダリティの分類である。贺阳(1992)は以上のモダリティの分類を以下のような図にしている。尚、日本語訳は筆者が付け足したものである。

図1



贺阳(1992:66)

本章では上記のモダリティ分類を基に分析を進めていきたい。次節では本節で考察したモダリティの分類を基にして、モダリティを表す助動詞“想”“愿意”、モダリティ副詞“好”“太”の性質について見ていく。

4. 2 モダリティ副詞

本節ではモダリティ副詞について詳しく見ていく。前節でモダリティを表す副詞として“竟”「意外にも」、「果然」「案の定」、「难怪」「まさか〜ではあるまい」、「なるほど」、「幸亏」「幸運にも」、「太」「あまりに」などを挙げた。これらは賀陽(1992)が指摘する「感情タイプ」に属する副詞である。“好”、“太”もこの「感情タイプ」に属する副詞である。以下、詳しく見ていく。

副詞“好”の持つ意味について呂叔湘(1999:256)は以下のように分類している。

1. 强调多或久。用在数量词、时间词或形容词‘多、久’前。数词限于‘一、几’
多さや時間的な長さの強調。数量詞、時間詞もしくは形容詞“多”、“久”の前にを用いられる。
数詞は“一”、“几”に限られる。
2. 表示程度深。多含感叹语气。
程度の深さを表す。多くの場合、感嘆の語気を含む。

(呂叔湘 1999:256)

本章で扱う“好”は2の意味である。李晋霞(2005)は程度副詞“好”は“好人”、“好事情”などの形容詞の“好”から文法化を経て派生したと説明している。そして形容詞の“好”は“好人”のように話し手が人や物の属性に対して評価を下していることから主観性を持つ表現であるとしており、その主観性は文法化を経て派生した程度副詞の“好”にも存在すると説明している。

(27) 好 漂亮! (李晋霞 2005:47)

すごく きれい

[すごくきれい!]

上記の例の“好”は“漂亮”の程度の高さに対する肯定的な評価を強調しており、話し手の感情が顕著に表れている。

次に程度副詞“太”について見ていきたい。呂叔湘(1999:526)は“太”の持つ意味を以下の2つに分類している。

1. 表示程度过头。多用于不如意的事情。句末常带‘了’

程度が度を越していることを表す。思うようにいかないことを表すのに多く用いられる。文末に“了”がよく用いられる。

2. 表示程度高

程度の高さを表す。

(吕叔湘 1999:526)

また张亚军(2002)は“太”について“过”、“过于”に近い“过量”の意味を持つ場合と単純に程度の高さを表す場合に分けられると指摘し、“过量”の意味を持つ場合は話し手の不満を表すことがあると指摘した。つまり“太”は程度の高さを表すとともにその高さが甚だしく、そのことに対して話し手の不満を表すということができるとのことである。

以上、“好”、“太”は話し手の程度の高さに対する主観的な判断、つまり感情を表すことから、「感情タイプ」に属することがわかる。この性質は両者の後続成分からもわかる。以下の例を参照されたい。

(28)a. 大家都 好 喜欢 芊芊, 实在 不舍得 让 她 早 回家。

みんな 大 好き 芊芊 本当に 難い させる 彼女 早く 帰宅する

[みんな芊芊のことが大好きで、彼女を早く帰宅させ難くする。]

b. 华茜 突然 无声无息, 我 好 担心。

華茜 突然 消息不明 私 とても 心配する

[華茜は突然、消息不明になった。私はとても心配だ。]

c. 那 夜 他 哭 了, 哭 得 好 伤心。(北大)

あの 夜 彼 泣く LE 泣く DE 非常に 傷つく

[あの夜、彼は泣いた。非常に傷つくほど泣いた。]

(29)a. 我 太 喜欢 这首 爱情 至上的协奏曲。

私 大 好き この 愛情 至上の協奏曲

[私はこの愛情至上の協奏曲が大好きです。]

b. 我 实在 太 担心 了!

私 本当に とても 心配する LE

[私は本当にとても心配しました。]

c. 不 能 再 为 自己 思索 了, 这 太 伤心。

BU できる さらに ため 自分 思索する LE この 本当に 傷つく

[さらに自分のために思索することができなくなり、本当に傷つきいた。] (北大)

上記で用いられる動詞“喜欢”、“担心”、“伤心”は程度副詞“好”、“太”と共起可能である。このような話し手の感情を表す動詞について张谊生(2004)は“心理感受动词”と指摘している。“好”、“太”は話し手の感情を表す副詞であるため上記のような“心理感受动词”と相性が良いということがわかる。では“心理感受动词”以外の動詞と“好”、“太”の共起状況はどのようなであるか次に見ていきたい。

(30)a. 咱们 车队 肯定 会 改变 面貌, 欢迎, 太 欢迎 了。

私たち 車の列 きっと HUI 変える 姿 歓迎する 非常に 歓迎する LE

[私たちの車の列はきっと姿を変え、非常に歓迎された。]

b. 这 使 她 显得 卑下, 交换的 意味 也 太 明确 。

これ させる 彼女 明らかに 下品 交換した 意味 も あまりに 明確である

[これは彼女を明らかに下品にさせた。交換した意味もあまりに不明確である。]

c. 我们 应该 去 寻找 真相, 我们 太 需要 真相。

私たち すべき 行く 探す 真相 私たち 非常に 必要である 真相

[私たちは真相を探し求めるべきであり、真相を探し求める必要が非常にある。] (北大)

(31)a. ? 咱们 车队 肯定 会 改变 面貌, 欢迎, 好 欢迎 了。

私たち 車の列 きっと HUI 変える 姿 歓迎する とても 歓迎する LE

b. ? 这 使 她 显得 卑下, 交换的 意味 也 好 明确 。

これ させる 彼女 明らかに 下品 交換した 意味 も とても 明確である

c. ? 我们 应该 去 寻找 真相, 我们 好 需要 真相。

私たち すべき 行く 探す 真相 私たち とても 必要である 真相

上記で用いられる動詞“欢迎”、“明确”、“需要”は“太”の後続成分になる。しかし“好”に後続する成分には成り難い。上記の例からわかるように“好”は“欢迎”、“明确”、“需要”の後続成分になるのは非常に不自然である。これは前節で説明した程度副詞としての“好”は話し手の主観を含む表現であることが原因となる。“太”も話し手の主観を含む表現ではあるが、その一方で話し手の感情は含まなく、ただ程度が非常に高いことを表す表現としても使用される。ゆえに上記で挙げたような“心理感受动词”以外の動詞を後続成分に持つことができる。このような“太”の性質はモダリティを表さない程度副詞と共通している。以下、モダリティの意味を持たない程度副詞“很”、“更”の後続成分を見ていきたい。

(32)a. 幼儿的秘方性 很 强。他们 很 喜欢 模仿 别人 的 言语、动作 和 行为。

幼児の神秘性 とても 強い 彼ら とても 好き 模倣する 他人 の 言語 動作 や 行動

[幼児の神秘性はとても強い。彼らは他人の言語、動作や行動を真似するのがとても好きだ]

b. 警备队里 因为 你 没 回去, 大家都 很 担心。

警備隊の中 ため あなた MEI 帰る 皆 とても 心配する

[警備隊の中からあなたが帰ってきていないから、皆とても心配している。]

c. 老 员工 没 来 找 我, 我 很 伤心。

年取った 従業員 MEI 来る 訪ねる 私 私 とても 傷つく

[年取った従業員は私を尋ねて来なかった。私はとても傷ついた。] (北大)

(33)a. 除了 会 拉 小提琴, 他 更 喜欢 引吭高歌。

以外にも できる 弾く バイオリン 彼 更に 好き 声を張り上げて高らかに歌う

[バイオリンを弾ける以外にも彼は更に声を張り上げて高らかに歌うのが好きだ。]

b. 害怕 麻烦, 更 担心 出 “乱子”, 影响 农村 社会 稳定。

心配する 煩わしさ 更に 心配する 起きる もめ事 影響する 農村 社会 安定

[煩わしさを心配したが、さらにもめ事が起きて、農村社会の安定に影響することをさらに心配した。]

c. 我 若 不 死, 她 更 伤心。(北大)

私 もし BU 死ぬ 彼女 更に 傷つく

[私がもし死なないのなら、彼女は更に傷つく。]

上記の例からわかるように“很”、“更”は“心理感受动词”を後続成分にすることができる。さらに以下の例を参照されたい。

(34)a. 秦英大学 的 学生 业务 能力 强, 能 吃苦, 工作 扎实,

秦英大学 の 学生 業務 能力 高い できる 苦勞する 仕事 しっかりしている

我厂 很 欢迎。

私の工場 とても 歡迎する

[秦英大学の学生の業務能力は高く、苦勞に耐えられ、仕事もしっかりしている。私の工場ではとても歓迎します。]

b. 在 中国社会, 哪个 职业 的 人才 都 很 需要。

で 中国社会 どの 職業 の 人材 皆 とても 必要である

[中国社会でどの職業の人材も皆、とても必要である。] (北大)

(35)a. 康奈尔大学 更 欢迎 黑人 和 犹太人。

コーネル大学 更に 歡迎する 黒人 と ユダヤ人

[コーネル大学は黒人とユダヤ人を更に歓迎する。]

b. 人民 需要 艺术, 艺术 更 需要 人民。(北大)

人民 必要とする 芸術 芸術 更に 必要とする 人民

[人民は芸術を必要とし、芸術は更に人民を必要とする。]

“很”、“更”は上記の例からわかるように“心理感受动词”以外の動詞を後続成分にすることができる。この性質は前述した“太”と同じである。“好”のみが後続成分を“心理感受动词”に限定する。“好”は前節で説明したように“太”とは異なり、必ず話し手の程度の高さに対する感情が表れる。“好”の後続成分が“心理感受动词”に限定することから、“好”は専ら程度の高さに対する話し手の感情を表す「感情タイプ」ということがわかる。

4. 3 モダリティと助動詞

本節ではモダリティを表す助動詞について扱っていききたい。4. 1節ではモダリティを表す助動詞として“会”、“能”、“能够”、“应该”、“愿意”などを挙げた。本章ではこの中でも“评判语气系统”「評価・判断タイプ」の下位成分、“能愿语气”「能力・意志のモダリティ」に属する“愿意”と“想”の特性を扱っていく。

4. 3. 1 “愿意”と“想”の性質の違い

“愿意”と“想”は4. 1節で説明したモダリティ分類の中の“能愿语气”「能力・意志のモダリティ」に該当する。“能愿语气”「能力・意志のモダリティ」はその下に“能力语气”「能力のモダリティ」と“意愿语气”「意志のモダリティ」があるが、“愿意”と“想”は“意愿语气”「意志のモダリティ」に属する。“想”は一般的に願望を表す表現と捉えられることが多いが、本章では願望表現も“意愿语气”「意志のモダリティ」に組み入れて考えていきたい。このような意志表現と願望表現を同じものとして扱うのは先行研究においても見られる。王力(1951)は助動詞をまず“能愿式”として、その中に“可能式”、“意志式”があると説明した。この“意志式”には“要”、“欲”、“肯”、“敢”などを挙げている。“欲”は願望を表す助動詞であるが、“意志式”に属している。これはつまり願望を意志の中に含めて捉えているということである。また劉月華(2001)は助動詞の中の“表示意愿的”を表すものとして“要”、“想”、“愿意”、“肯”、“敢”を挙げている。この中の“要”は一般的に意志を表すものであるが、“表示意愿的”の中に入れられていることから、意志を願望と同じものとして扱っていると言える。本章でも以上の先行研究に見られるような願望と意志を同種と捉える考え方に基づき“意愿语气”「意志のモダリティ」としての“想”と“愿意”の性質の分析を行っていききたい。尚、本章で度々、用いられる意志表現とは“意愿语气”「意志のモダリティ」と同義である。

4. 3. 1. 1 “愿意”と意志表現

本節では“愿意”の性質を見ていききたい。鲁晓琨(1999)は“愿意”の性質を“回应选择性”「回答選択型」と指摘している。“回应选择性”「回答選択型」とは主体が文脈から自身の願望を選択することである。

(36)*你 愿意 去 中国 吗? (鲁晓琨 1999:534)

あなた たい 行く 中国 MA

(37)公司 派 你 去 中国, 你 愿意 去 吗? (鲁晓琨 1999:534)

会社 派遣する あなた 行く 中国 あなた たい 行く MA

[会社があなたを中国に派遣したら、あなたは行きたいですか?]

“愿意”は“回应选择性”「回答選択型」の性質を持つため上記の(35)のように文脈がない唐突に尋ねられた疑問文には用いることはできない。しかし(36)のような文脈を持った場合、用いることはできる。それは前文で“公司派你去中国”で“去”と“不去”という選択肢を提示しているためである。以上からわかるように“愿意”は文脈や話し手の想定から意志を選択する性質を持つ。

4. 3. 1. 2 “想”と意志表現

本節では“想”の性質を見ていきたい。鲁晓琨(1999)は“想”の性質を“主动自发性”「自主自発型」と指摘している。“主动自发性”「自主自発型」とは主体の意志が話し手自身の内面から起こるというものである。この特徴は前述した“愿意”の“回应选择性”「回答選択型」と対照的な性質であり、“想”は主体の内面から起こる意志であるため、“愿意”のように選択肢を必要としない。ゆえに“想”は上記で挙げたような唐突に尋ねられた疑問文に用いることができる。

(38)你 想 去 中国 吗?

あなた たい 行く 中国 MA

〔あなたは中国に行きたいですか?〕

以上が鲁晓琨(1999)が説明する“想”の性質である。さらに“想”の性質を分析する先行研究として挙げられるのが孫樹喬(2014)である。孫樹喬(2014)は“想”は「未定意志」に属すると指摘している。「未定意志」とは孫樹喬(2014)が益岡(2002)の挙げる「定意志」、「不定意志」をさらに発展させたものである。以下、「定意志」、「不定意志」、「未定意志」の定義について説明していきたい。まず益岡(2002)が挙げる「定意志」、「不定意志」について見ていきたい。「定意志」とは話し手の意志が定まっていることであり、「不定意志」とは話し手の意志が定まっていないことである。益岡(2002)は日本語における「定意志」を表すものとして「スル」、「不定意志」を表すものとして「スルカ」、「シヨウカ」を挙げている。以下の例を参照されたい。

(39)「いや帰る」厚夫は立った。「待つて、私も帰る」和香子が追ってきた。(益岡 2002:75)

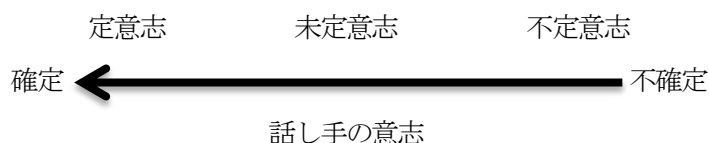
(40)医者が駄目だって言うなら、それにさからってやろうかって僕は思ったんです。

(益岡 2002:76)

(41) アルバイトでもやりながらゆっくり探るか。(益岡 2002:77)

上記(39)の「帰る」は話し手の意志が定まっていることを表す「定意志」である。そして(40)の「やろうか」、(41)の「探るか」は話し手の意志が定まっていない「不定意志」である。「不定意志」は上記の例からわかるように疑問助詞「か」が用いられる。上記の「やろう」「探す」という動作は疑問助詞によって動作の実現の確定を避ける表現となることから、話し手の意志が確定されていない状態にあることがわかる。益岡(2002)はこのような話し手の意志が定まっていないものを「不定意志」と指摘している²。次に孫樹喬(2014)の挙げる「未定意志」について見ていきたい。孫樹喬(2014)は益岡(2002)の「定意志」、「不定意志」を発展させて「定意志」、「不定意志」の間に「未定意志」を定めた。「未定意志」とは「定意志」のように意志は定まっておらず、「不定意志」ほど意志が不確定な表現ではなく、話し手が意志の断定を避ける表現ではないもののことである。つまり話し手の意志の確定度には段階性が存在するということである。これらを図にすると以下のようなになる。

図2



孫樹喬(2014)は「定意志」は既に定まった意志で、基本的に打消しすることができなく、「未定意志」は完全に決まっていない部分があるので、必ず実行されるとは限らないと指摘し、中国語において「定意志」に属するものは“要”³、「未定意志」に属するものは“想”としている。以下、“想”が「未定意志」に属す根拠となる例を見ていきたい。

(42) 俞心蕾: 你 是 这里 老板 啊?

あなた SHI ここ 店長 A

[あなたがここの店長なの?]

²孫樹喬(2014)は「不定意志」に属する中国語の例を挙げていない。先行研究において例(40)(41)のように意志を表すが実行の確定を避ける現代中国語の表現について管見の限り見当たらない。今後の課題にしていきたい。

³孫樹喬(2014)は“要”が「定意志」に属する根拠として“我要回家。”「私は家に帰る。」のような断定的な表現に“要”が用いられること、また“*我要去学校, 可是没时间。”のような“要”によって表された意志が後文で変更できないことを挙げている。

秦朗: 不 是 啊……世界 一流 蚵仔煎 主厨, 秦朗。

BU SHI A 世界 一流 カキオムレツ コック長 秦朗

[いや、世界的なカキオムレツの名人、秦朗だ。]

俞心蕾: (心里 想) 怎么办, 我 绝 不 能 像 这种 人 低头!

心 思う どうしよう 私 絶対 BU できる ような この人 頭をさげる

不对, 我 付 钱 要 他 教 我 做 蚵仔煎,

嫌だ 私 払う お金 頼む 彼 教える 私 作る カキオムレツ

这 也 不 算 是 低 头。 (对 秦朗 说)

これ も よい SHI 頭をさげる に 秦朗 言う

我 想 包下 这里 跟 你 学 做 蚵仔煎。

私 XIANG 貸し切る ここ に あなた 習う 作る カキオムレツ

[どうしようこんな人に頭をさげるなんて絶対嫌!いいえ、お金を払って教われればいいんじゃない。それなら頭をさげる必要もないわ。(秦朗に言う)ここを貸し切って、カキオムレツの作り方を習いたい。] (孫樹喬 2014:56)

(42)は“包下这里跟你学做蚵仔煎”という動作自体は話し手が制御できることであるが、文脈を見ると“包下这里跟你学做蚵仔煎”という動作は相手の承認があつてはじめて実行可能になる。孫樹喬(2014)はこのような制御不能な動詞は「未定意志」を表す対象動作に用いられると指摘している。「未定意志」は文中の対象動作が必ず実行されるわけではないため、対象動作が話し手にとって制御不能なものでも問題ないのである。さらに“想”は「未定意志」の性質を持つため以下のような話し手の意志を変更させる文脈に用いることができる。

(43)我 想 去 学校, 可是 没 时间。(孫樹喬 2014:57)

私 たい 行く 学校 でも MEI 時間

[私は学校に行きたい。でも時間がない。]

これは“想”が「未定意志」であるため、話し手が途中で意志を変更させても問題が生じないためである。“想”は以上の対象動作が制御不能であること、話し手の意志を後文で変更することができるということから「未定意志」であるということがわかる。

以上、“想”が意志表現として分析されている先行研究を見てきた。魯晓琨(1999)は“想”を“主动自发性”とし、主体の意志が話し手自身の内面から起こると指摘した。孫樹喬(2014)は

“想”を話し手の意志がまだ完全に定まっていない「未定意志」であると指摘した。孫樹喬(2014)は「未定意志」の分析において“愿意”を扱っていない。以下の節で“愿意”と「未定意志」の関係について見ていく。

4. 3. 1. 3 “愿意”と「未定意志」

本節では前節で説明した“想”の性質である「未定意志」は“愿意”とどのような関係があるのか見ていきたい。まず“愿意”の対象動作が話し手にとって制御不能であるかどうか見ていきたい。以下の動詞はすべて話し手が制御できない動作と言える。

(44)我 考上 大学 了。 (北大)

私 合格する 大学 1E

[私は大学に合格した。]

(45)表现 仍 十分 坚定, 受人 赞赏。 (北大)

表現 依然として 十分に しっかり 受ける 賞賛する

[表現は依然として十分にしっかりしており、賞賛を受けている。]

(46)各地 在 实施 义务教育 的 过程中, 取得了 丰富的 经验。 (北大)

各地 で 実施する 義務教育 の 過程 得る 1E 豊富な 経験

[各地で実施される義務教育の過程で豊富な経験を得た。]

(47)我 想 让 他 摆脱 我的 束缚, 得到 自由。 (北大)

私 たい させる 彼 抜け出す 私 の 束縛 得る 自由

[私は彼を束縛から抜け出させ、自由にさせたい。]

(48)通过 学习者 自我 识别、 自我 选择, 获得 知识。 (北大)

通して 学習者 自分で 見分ける 自分で 選択する 得る 知識

[学習者を通して自分自身で見分け、自分で選択し、知識を得る。]

上記の例で用いられた動詞または動詞フレーズは話し手が制御できない動作である。例えば(44)の“考上”は大学に合格するかどうかは話し手自身が決めることができない制御不能な動作である。(45)の“受人”は他人から賞賛という行為を受けて初めて成立する動作であって、話し手が制御できないものである。(46)の“取得”、(47)の“得到”、(48)の“获得”は条件や

他人の許可があって成立する動作であり、話し手が制御することはできない。以上のような話し手の制御不能な動作が意志表現と共に用いられると以下のようなになる。

(49)a. 我 一直都 生活 在 梦想 里, 我 想 考上 复旦中文系。《沉》

私 ずっと 生活する で 夢 中 私 たい 合格する 复旦大学中文

[私はずっと夢で生活している。私は复旦大学に合格したい。]

b.* 我 一直都 生活 在 梦想 里, 我 愿意 考上 复旦中文系。

私 ずっと 生活する で 夢 中 私 たい 合格する 复旦大学中文

(50)a. 只不过 在 看到 同样身为女孩子家的圆圆 情况下, 自然而然的 也 想 受人赞赏。《卿》

すぎない で 見る 同じ女の子の圆圆 状況 自然と も たい 賞賛を受ける

[同じ女の子の圆圆的状況を見て、自然と(自分も)賞賛を受けたいと思っただけである。]

b.#只不过 在 看到 同样身为女孩子家的圆圆 情况下, 自然而然的 也 愿意 受人赞赏。

すぎない で 見る 同じ女の子の圆圆 状況 自然と も たい 賞賛を受ける

(51)a. 想要 进行 圣战, 想 取得 最后的胜利。 (北大)

たい 行う 聖戦 たい 得る 勝利

[聖戦を行いたい。そして勝利を得たい。]

b.#想要 进行 圣战, 愿意 取得 最后的胜利。

たい 行う 聖戦 たい 得る 勝利

(52)a. A: 你 想 离婚 吗?

あなた たい 離婚する MA

[あなたは離婚したいですか?]

B: 想 啊, 我 想 得到 自由。 (北大)

XIANG A 私 たい 得る 自由

[したいよ。私は自由を得たい。]

b. # A: 你 想 离 婚 吗?

あなた たい 離婚する MA

B: 想 啊, 我 愿意 得到 自由。

XIANG A 私 たい 得る 自由

(53)a. 干 了 一 年 的 活 以 后, 我 又 回 到 学 校, 想 获 得 大 学 文 凭。 (北大)

する LE 一年 の 仕事 後 私 また 戻る 学校 たい 得る 大学 卒業証書

[一年間、仕事をした後、私はまた学校に戻り、大学の卒業証書を得たい。]

b. # 干 了 一 年 的 活 以 后, 我 又 回 到 学 校, 愿 意 获 得 大 学 文 凭。

する LE 一年 の 仕事 後 私 また 戻る 学校 たい 得る 大学 卒業証書

前述したように“想”は「未定意志」を表すことができる。そのため上記aのような話し手の制御不能な動作の意志を表す表現に用いられることができる。そしてaをbの“愿意”に書き換えると不自然な文になってしまう。しかし上記の制御不能な動作のいくつかは文脈を変えれば“愿意”を用いることが可能である。

(54) 一切 艺术家 都 愿意 受人 赞赏。

すべて 芸術家 皆 たい 受ける 賞賛する

他的同时代人的 赞誉 乃是 他的 酬报中 最 可 珍贵的一部分。《文》

彼の同時代の人 の 賞賛 である 彼の 報酬 最も 本当に 貴重な一部分

[彼の同時代の人々の賞賛は彼の報酬の中で一番貴重な一部分である。]

(55) 解决 中国国内 问题, 我 愿意 取得 总统的帮助。 《国》

解決する 中国国内 問題 私 たい 得る 大統領の助け

[中国国内の問題を解決するには大統領のご助力を得ることを望みます。]

(56) “虽然如此,” 稻草人 说,

そだけれども 案山子 言う

“我 愿意 得到 脑子 而 不是 一颗心, 因为 一个 蠢货 即使 有 了

私 たい 得る 脳みそ しかし ではない 心 なぜなら 一人 愚か者 たとえ ある LE

一颗心, 也 不 知道 怎样 去做。”《绿》

心 も BU 知る どのように 使う

〔「そうだけれども」案山子は言う。私は脳みそが得たいのであり、心を得たいのではない。なぜなら一人の愚か者にたとえ心があってもどのように使うかわからないからだ。〕

(57)他 虽然 不 喜欢 那种 尴尬, 但 还是 愿意 获得 加入 联谊会的快乐。《被》

彼 だけれども BU 好き あの 気まずさしかし やはり たい 得る 参加する 懇親会の楽しさ

〔彼はあの気まずさは好きではないけれども、やはり懇親会に参加する楽しさを得たかった。〕

しかし上記の(54)～(57)は(49)～(53)とは異なり、すべて話し手の積極的な気持ちを表すものである。例えば(50)と(54)は“想受人赞赏”という述語を持つが、(50)の方は賞賛を周りから受け身的に授与されることを望む文脈であるのに対して、(54)は積極的に賞賛を受けたいという気持ちが表れている文脈である。話し手が積極的な気持ちを表すというのはまた話し手の制御が働いていることも意味する。以上からわかるように“愿意”は話し手にとって制御不能な対象動作を後続させることができないということがわかる。

次に“愿意”が「未定意志」のもう一つの根拠である一度表した意志が変更可能である文脈に用いられるかどうかを見ていきたい。

(58)我 愿意 去 学校, 可是 没 时间。

私 たい 行く 学校 でも ない 時間

〔私は学校にいきたい。でも時間がない。〕

上記からわかるように“愿意”は一度表した意志を変更することができる。しかし上記のような“去学校”「学校に行く」という意志を打ち消した原因を“没时间”「時間が無い」というような話し手以外の外部に求めるものではなく、話し手自身の内部に求める場合、“愿意”を用いることはできない。

(59)*我 愿意 去 外国留学, 可是 我 不 敢。

私 たい 行く 外国留学 でも 私 BU できる

上記の例では「学校に行く」という話し手の意志は話し手の内部にある感情、“不敢”によって

打ち消されている。このような場合、“愿意”を用いることはできない。しかし“想”は用いることができる。

(60) 我 想 去 外国留学, 可是 我 不 敢。

私 たい 行く 外国留学 でも 私 BU できる

[私は外国に留学したいが、でもできない。]

さらに次の例を参照されたい。

(61) 我想笑又想哭! 我的胃拼命搅动。《北》

私 XIANG 笑う また たい 泣く 私 の 胃 必死に かき混ぜる

[私は笑いたかったし、泣きたかった。胃の中で必死にこれらがかき混ぜられていた。]

(62) 做完运动, 突然想吐了, 但是又饿,

する 終わる 運動 突然 たい 吐く LE しかしまた 腹が減る

又想吐又想吃, 我怎么办? (北大)

また たい 吐く また たい 食べる 私 どうするのか

[運動し終わると突然吐きたくなる。しかしまた腹が減る。吐きたくなったり、食べなくなったり、私はどうすればいいのか?]

(63) 赵云听了此话, 又想笑, 又想恼,

趙雲 聞く LE この話 また たい 笑う また たい 憤る

只得 狠狠地 打了他一拳。《荷》

せざるを得ない 思い切って 殴る LE 彼 一発

[趙雲はこの話を聞いて、笑いたくもあり、また憤りたくなった。彼を一発、思い切って殴らざるを得ない気持ちになった。]

(64) 一个矮小结实黝黑的乡下汉子, 面朝西南城市的方向,

一人 小さな 丈夫な 黒い 農村 男 向かう 西南都市の方向

小脸上是又想睡又想笑又想骂的怪异神气。《苏》

顔つきをする SHI ~て たい 寝る ~て たい 笑う ~て たい 罵る 奇妙な顔つき

[一人の小さくて丈夫で黒い農村の男が西南都市の方向に向かって、眠りたくて、笑いたくて、罵りたい奇妙な顔つきをしている。]

上記の例はみな“想”が用いられている。また各々の例で話し手もしくは主体の二つ以上の意志が未定のまま保留されている。例えば(61)では“笑”と“哭”が話し手の中でどちらを選択するか決定していない状態である。このような文脈は“愿意”は用いることができない。

(65)*我愿意笑又愿意哭!我的胃拼命搅动。

私 たい笑う また たい泣く 私 の 胃 必死に かき混ぜる

(66)*做完运动,突然想吐了,但是又饿, 又愿意吐又愿意吃, 我怎么办?

する 終わる 運動 突然 たい 吐く LE しかしまた 空腹 また たい 吐く また たい 食べる 私 どうする

(67)*赵云听了此话, 又愿意笑,又愿意恼,只得狠狠地 打了他一拳。

趙雲 聞く LE この話 また たい 笑うまた たい 憤る ZHIDE 思い切って殴る LE 彼 一発

(68)*一个矮小结实黝黑的乡下汉子,面朝西南城市的方向,

一人 小さな 丈夫な 黒い 農村 男 向かう 西南都市 の 方向

小脸上是又愿意睡又愿意笑又愿意骂的怪异神气。

顔つきをする SHI~て たい 寝る~て たい 笑う ~て たい 罵る 奇妙な顔つき《苏》

上記の例から“愿意”は意志を変更することができる文脈には用いることができないということがわかる。(58)は一見するとこの例外のように思われるが、“没时间”「時間が無い」という外部からの要因により、“去学校”「学校に行く」という動作の変更を行っているにすぎず、話し手自身の意志が変更しているとは言えない。以上の話し手にとって制御不能な動作を後続成分として受け入れられないこと、また意志を変更することができる文脈には用いることができないということから“愿意”は「未定意志」を表さないことがわかる。これは同じ意志表現である“想”とは異なる性質である。これは“愿意”が魯晓琨(1999)が指摘するように“回应选择性”の性質を持つことと関係がある。“回应选择性”とは話し手が意志を選択することであり、選択する時点で意志が未定であることはない。一方、“想”について魯晓琨(1999)は“主动自发性”を持つと指摘している。“主动自发性”とは話し手が意志を選択することは表しておらず、話し手自身の内面に意志が所在していることを表すものである。ゆえにその意志が未定のまま保留されても問題にはならない。以上のように“愿意”と“想”は同じ意志表現であるが、話し手にとっての意志のあり方が異なる。“愿意”は話し手が意志を選択することを表すのに対して、“想”は話し手が意志を所持していることを表すものである。このような違いは以下の例からわかる。

(69) 今晚 我 想 约 你 出去, 怎么样?

今晚 私 たい誘う あなた 出かける どうですか

[今晚、私はあなたを誘って出かけた。どうですか?]

上記の(69)は“想”が用いられた文であるが、この文は聞き手に対して“出去”という動作を実行することを提案している。それは“想”が“出去”を行う意志の所持を描写し、間接的な依頼文を作り上げているためである。この文に用いられている“想”を“愿意”に置き換えると聞き手に対して動作実行を促す文ではなくなってしまう。

(70)#今晚 我 愿意 约 你 出去, 怎么样?

今晚 私 たい 誘う あなた 出かける どうですか

[今晚、私はあなたを誘って出かける決めました。どうですか?]

上記の例では“愿意”が用いられているため、話し手が“约你出去”という事柄をすでに選択している。そのため“想”のように“约你出去”という意志の所持を描写し、提案する表現ではなく、聞き手に対して“出去”という動作を押し付けるような強引なニュアンスが表れる。本章ではこのような“愿意”と“想”の性質を“愿意”が意志を選択することに重点を置く「選択性意志」、 “想”が意志の所持を描写することに重点を置く「描写性意志」とする。また両者はこのような性質の違いから以下の例に見られるようなニュアンスの違いが生じる。

(71)a. 如果 你 需要 的话, 我 愿意 跟 你 结婚。

もし あなた 必要 なら 私 望む と あなた 結婚する

[もしあなたが必要なら、私はあなたと結婚することを望む。]

b. *如果 你 需要 的话, 我 想 跟 你 结婚。

もし あなた 必要 なら 私 たい と あなた 結婚する

(72)a. 王欣 慢慢 把 林冬儿 的 手 握住, 恳切地 看着 林冬儿的眼睛

王欣 ゆっくりと を 林冬児 の 手 握る 誠実に 見ながら 林冬児の目

“我 愿意 给 你 幸福……”

私 たい 与える あなた 幸せ

[王欣はゆっくりと林冬児の手を握り、誠意を込めて林冬児の目を見た。「私はあなたを幸せ

にしたい。」]

b. #王欣 慢慢 把 林冬儿 的 手 握住, 恳切地 看着 林冬儿的眼睛

王欣 ゆっくりと を 林冬児 の 手 握る 誠実に 見ながら 林冬児の目

“我 想 给 你 幸福……” 《刺客》

私 たい 与える あなた 幸せ

上記の例は“结婚”“给你幸福”などの利益を話し手が聞き手に対して与える文脈である。このような文脈においては「選択性意志」の“愿意”の方が話し手の利益を差し出す積極的な気持ちを表し、より適切である。これは“愿意”が「選択性意志」であるため、意志を自ら選択することで、話し手の積極的な気持ちを表すニュアンスが生まれるためである。一方、“想”は話し手が意志を所持していることを描写するのにすぎず、話し手の積極的な気持ちを表さないため、上記のような文脈において適切ではない。以上、意志表現としての“愿意”と“想”の性質を見てきた。次節ではこのような性質を持つ“愿意”、“想”がモダリティ副詞と共起した際に生じる制限について探っていききたい。

4. 4 モダリティ副詞と助動詞

本節では副詞“好”、“太”と助動詞“愿意”、“想”の共起に見られる制限を探っていく。前述したように“好”、“太”は話し手の感情を「感情タイプ」のモダリティを表す表現である。そのためこれらに後続する動詞は“喜欢”、“担心”、“伤心”などの感情を表す動詞、“心理感受动词”が多い。また“太”は“好”とは異なり、必ずしも「感情タイプ」のモダリティを表すわけではなく、ある事象の程度の高さを表すこともある。そのため“太”には“欢迎”、“明确”、“需要”などの“心理感受动词”以外のものも後続成分となる。以上のような特徴が“愿意”、“想”に影響を与え、共起状況の違いを生み出す。以下、詳しく見ていきたい。

前節で説明したように“愿意”は「選択性意志」、「想」は「描写性意志」の特徴を持つ。このような特徴は“好”、“太”が表す「感情タイプ」のモダリティとどのような関係にあるのだろうか。“好”、“太”は「感情タイプ」に属する話し手の感情を表す感情表現である。感情表現とは話し手の内面、心情のあり方を描写するものである。話し手の内面を描写するという点において“想”の「描写性意志」とは一致した性質を持つが、「選択性意志」の“愿意”とは相容れない。それは「選択性意志」とは話し手が意志を自ら選択することに重点を置く表現であるため、意志の所有を描写するのに留まらない表現であるためである。そのため以下のような話し手の感情を表すことに留まる表現に“愿意”を用いることはできない。

(73)a. 可是 看了 内容 之后, 仍然 感谢 你 对 我的 信任,

しかし 見る LE 内容 後 依然として 感謝する あなたに 私 の 信頼

不由得 想 写 几句话 给你。 (北大)

思わず たい 書く いくつかの話 に あなた

[しかし内容を見た後、依然としてあなたの私に対する信頼に感謝しており、思わずいくつかの話をあなたに書きたくなった。]

b.*可是 看了 内容 之后, 仍然 感谢 你 对 我的 信任,

しかし 見る LE 内容 後 依然として 感謝する あなたに 私 の 信頼

不由得 愿意 写 几句话 给你。

思わず たい 書く いくつかの話 に あなた

(74)a. 好好 吃 哦! 应该 不 只 加 了 鸡精粉, 还有 迷药, 吃了 令人 想 飞。 (北大)

しっかり食べる 0 はず BU だけ 加える LE 鶏精粉 さらに ドラッグ 食べる させる たい 飛ぶ

[しっかり食べて。鶏精粉だけでなく、ドラッグも加えたはずだから、食べると飛びたくさせる。]

b.*好好 吃 哦! 应该 不 只 加 了 鸡精粉, 还有 迷药, 吃了 令人 愿意 飞。

しっかり 食べる 0 はず BU だけ 加える LE 鶏精粉 さらに ドラッグ 食べる させる たい 飛ぶ

上記の例は“不由得”、“令人”が用いられていることからこれらに後続する意志は話し手にとって、制御不能であることがわかる。制御不能な意志とは話し手が意志を所持していることを表すのみで、そこに話し手の意志の選択は表れない。ゆえに「描写性意志」の“想”は上記のような制御不能な文脈に用いることはできるが、「選択性意志」の“愿意”はできない。以上からわかるように「選択性意志」の“愿意”は話し手の感情を描写する表現に適さないが、「描写性意志」の“想”はそのような表現に問題なく用いることができるということがわかる。このような違いが“好”と一部の“太”との共起に異なった様相を見せる。

(1)' b. ? 我 今天 非常 高兴, 我 太 愿意 得到 这块金牌,

私 今日 非常に 嬉しい私 とても たい 手に入れる この金塊

我 准备 了 很 长 时间 , 终于 成功 了。

私 準備する LE とても 長い 時間 ついに 成功する LE

(2)' b. *啊, 我 思念 你, 好 愿意 见 她!

ああ 私 思う あなた とても たい 会う 彼女

また“太”は必ずしも「感情タイプ」を表すわけではない。そのため一部の“太”は「選択性意志」の“愿意”とも共起できる。

(3)' 我 说 保送 还 考 不 考 哇,

私 言う 推薦する さらに 受験する BU 受験する WA

公社 说 就 考考 语文 和 政治, 我 说 我 太 愿意 走 啦。 (北大)

公社 言う JIU 受験する 国語 と 政治 私 言う 私 とても たい 行く LA

[私が推薦されるのだから更に受験する必要があるのかと言ったら、公社は国語と政治を受験するように言った。私はとても行きたいですと言った。]

以上、“好”、“太”と“愿意”、“想”の共起制限の原因について探ってきた。“好”、“太”の持つモダリティの性質が“愿意”、“想”に影響を与え、異なった共起状況を生み出すということがわかった。

4. 5 終わりに

本章では副詞がモダリティ成分、助動詞に与える影響を見てきた。まず本章では中国語のモダリティの分類を賀阳(1992)に基づき「文機能タイプ」、「評価・判断タイプ」、「感情タイプ」とした。本章で扱う副詞“好”、“太”はこの3つの分類において「感情タイプ」に属し、助動詞“愿意”、“想”は「評価・判断タイプ」の下位成分である「意志のモダリティ」に属し、主体の意志を表す。これらが影響し合うことで共起制限が生じる。本章ではモダリティ副詞との共起制限の分析を通して、「意志のモダリティ」を表す“愿意”、“想”には“愿意”の方は主体が意志を選択することに重点を置く「選択性意志」、「想」は主体の心理を描写する「描写性意志」であることがわかった。

5. 総括

本論文では副詞と焦点、アスペクト、モダリティを表す要素との共起制限について考察を行った。以下、2章、3章、4章での分析を簡単にまとめる。

2章では意味対象が焦点となる副詞を意味指向副詞とし、意味指向副詞自身の性質と疑問文の焦点に与える共起制限について探った。

(1)a. 战俘 是 由 陆军 来 处置的, 海军 也 可以 处置 战俘。

捕虜 SHI から 陸軍 LAI 処理する 海軍 も できる 処理する 捕虜

[捕虜は陸軍によって処理されることになっているが、海軍も処理してよい。]

b. 战俘 是 由 陆军 来 处置的, 海军 也 可以 处置 战俘 吗?

捕虜 SHI より 陸軍 LAI 処理する 海軍 も できる 処理する 捕虜 MA

[捕虜は陸軍により処理されることになっているが、海軍も処理することはできるのか?]

c. *战俘 是 由 陆军 来 处置的, 海军 也 可以 不 可以 处置 战俘?

捕虜 SHI から 陸軍 LAI 処理する 海軍 も できる BU できる 処理する 捕虜

(=2章 (63))

(2)a. “我 很 喜欢 你 的 制服,” 马吉里 补充 道,

私 とても 好き あなたの 制服 マジリ 補足して 言う

“拉斯维加斯的 警察 都 穿 这个”

ラスベガス の 警察 皆 着る これ

[「私はあなたの制服がとても好きです。」マジリが補足して言った。ラスベガスの警察は皆、これを着ている。]

b. “我 很 喜欢 你 的 制服,” 马吉里 补充 道,

私 とても 好き あなたの 制服 マジリ 補足して 言う

“拉斯维加斯的 警察 都 穿 这个 吗?”

ラスベガス の 警察 皆 着る これ MA

[「私はあなたの制服がとても好きです。」マジリが補足して言った。ラスベガスの警察は皆、これを着ているのですか?]

- c. * “我 很 喜欢 你 的 制服，” 马吉里 补充 道，
私 とても 好き あなたの 制服 マジリ 補足して 言う
“拉斯维加斯的 警察 都 穿 不 穿 这个？”
ラスベガス の 警察 皆 着る BU 着る これ

(=2章 (64))

- (3)a. 那 你 只 喜欢 我一个
では あなた だけ 好き 私一人
〔ではあなたは私一人だけを好き。〕

- b. 那 你 只 喜欢 我一个 吗？
では あなた だけ 好き 私一人 MA
〔ではあなたは私一人だけを好きなの？〕

- c. *那 你 只 喜欢 不 喜欢 我一个？
では あなた だけ 好き BU 好き 私一人

(=2章 (65))

- (4)a. 这 世界上，她 最 漂亮。
この 世界 彼女 最も きれい
〔この世界で彼女が最も美しい。〕

- b. 这 世界上，她 最 漂亮 吗？
この 世界 彼女 最も きれい MA
〔この世界で彼女が一番美しいですか？〕

- c. *这 世界上，她 最 漂亮 不 漂亮？
この 世界 彼女 最も きれい BU きれい

(=2章 (66))

- (5)a. 你 常常 参加 志愿活动。
あなた よく 参加する ボランティア活動

[あなたはよくボランティア活動に参加します。]

b. 你 常常 参加 志愿活动 吗?

あなた よく 参加する ボランティア活動 MA

[あなたはよくボランティア活動に参加しますか?]

c. *你 常常 参加 不 参加 志愿活动?

あなた よく 参加する BU 参加する ボランティア活動

(= 2章 (67))

上記の b からわかるように諾否疑問文は意味指向副詞と共起できるが、c のように正反疑問文は共起することができない。これは意味指向副詞と疑問文の焦点の特徴が原因となる。上記の“都”、“只”、“最”、“常常”は意味指向副詞であり、a のように波線部分の意味対象を焦点とする。そしてこれらは疑問文に用いられると、これら自身と意味対象を焦点とする。このような意味指向副詞の疑問文における特徴は焦点の位置を自由に移動できる「可動焦点」の特徴を持つ諾否疑問文とは共起が可能であるが、焦点の位置を述語部分に固定する「固定焦点」とは相容れないため、共起することができない。2章では以上の考察を通し、意味指向副詞と焦点の関係、意味指向副詞の疑問文における特徴を探り、この特徴が命題の是非を尋ねるという点で共通性を持つ諾否疑問文と正反疑問文に異なった共起状況を引き起こす原因となるということを明らかにした。

3章ではアスペクトを表す副詞をアスペクト副詞とし、これらが「将然のアスペクト」「就要～了”、“快要～了”に与える共起制限の原因について探った。

(6)a. 圣诞节 已经 快要 变成 中国人 的 “公关节” 了。

クリスマス もう 間もなく 変える 中国人 の コミュニケーションをする日 LE

[クリスマスはもう間もなく中国人のコミュニケーションをする日にかかわろうとしている。]

b. * 圣诞节 已经 就要 变成 中国人 的 “公关节” 了。

クリスマス もう 間もなく 変える 中国人 の コミュニケーションをする日 LE

(= 3章 (1))

(7)a. 我们 马上 就要 开始 合作 了! (北大)

私たち すぐに しょう 始める 協力する LE

[私たちはすぐに協力を始めましょう。]

b.*我们 马上 快要 开始 合作 了!

私たち すぐに しょう 始める 協力する LE

(=3章(2))

(8)a. 他 清醒地 知道, 一切 立刻 就要 结束 了。

彼 はっきりと 理解する すべて すぐに している 終わる LE

[彼ははっきりとわかった。すべてはすぐに終わろうとしていると。]

b.*他 清醒地 知道, 一切 立刻 快要 结束 了。

彼 はっきりと 理解する すべて すぐに している 終わる LE

(=3章(3))

(9)a. 工人们 每天 只 挣 7 角钱, 企业 眼看 就要 倒闭 了。

労働者 毎日 しか 稼ぐ 角 企業 すぐに だろう 倒産する LE

[労働者が毎日7角しか稼げないなんて、その企業はすぐに倒産してしまうだろう。]

b.*工人们 每天 只 挣 7角钱, 企业 眼看 快要 倒闭 了。

労働者 毎日 しか 稼ぐ 角 企業 すぐに だろう 倒産する LE

(=3章(4))

上記の例からわかるようにアスペクト副詞“已经”は「将然のアスペクト」の“快要～了”とは共起可能であるが、“就要～了”とは共起できない。またアスペクト副詞“马上”、“立刻”、“眼看”は“快要～了”とは共起できないが、“就要～了”とは共起できる。これは「将然のアスペクト」の“就要～了”、“快要～了”の構成要素となる“快”、“就”が原因となり、引き起こされるものである。“就要～了”の構成要素となる“就”はその“基本意义”「基本義」から注視点を起点と終点の距離の短さに置く。この“就”の注視点の特徴が“就要～了”にも影響し、“就要～了”は終点を明らかにする実現性の強い「将然のアスペクト」となる。このような“就要～了”の特徴は“已经”のような完了を表し、その状態が持続していることに注視点を置く副詞とは共起できないが、“马上”、“立刻”、“眼看”のような参照点からある動作が達成する点の短さを表す副詞とは共起できる。一方、“快要～了”の構成要素“快”は動作のはやさ、もしくは動作の始動のはやさを描写する。このような“快”の影響を受けた“快要～了”は起

点と終点を定めない描写性の強い「将然のアスペクト」となる。ゆえに“已经”のようなある動作や状態が完了した後、持続していることに注視点を置く副詞とは矛盾が生じることはないが、“马上”、“立刻”、“眼看”のような参照点からある動作が達成する点の短さを表す副詞とは矛盾が生じ、共起することができない。3章では以上の考察を通し、アスペクト副詞の注視点の特徴が「将然のアスペクト」「就要～了’、“快要～了’”との共起に関係があるということが明らかになった。これは“就要～了’、“快要～了’”がそれぞれの構成要素“就”、“快”の注視点の影響を受けるためである。

4章ではモダリティ副詞“太”、“好”が同じくモダリティを表す助動詞“想”、“愿意”に与える共起制限を探った。

(10) a. 韩国队 太 想 赢 这场 半决赛 了。

韩国チーム とても たい 勝つ この 準決勝 LE

[韓国チームはとてもこの準決勝に勝ちたかった。]

b. ? 韩国队 太 愿意 赢 这场 半决赛 了。

韩国チーム とても たい 勝つ この 準決勝 LE

(=4章(5))

(11)a. 嗯, 我 好 累 好 热, 好 想 洗个澡……

うん 私 とても 疲れる とても 暑い とても たい 入浴する

[うん、私はとても疲れていて、暑いので、入浴したい。]

b. *嗯, 我 好 累 好 热, 好 愿意 洗个澡……

うん 私 とても 疲れる とても 暑い とても たい 入浴する

(=4章(6))

上記からわかるように“太”は“想”とは問題なく共起できるが、“愿意”は共起することが難しい。また“好”は“想”と共起できるが、“愿意”とは共起できない。これはこれらのモダリティの性質が原因となる。“太”と“好”は共にモダリティ表現であり、話し手の感情を表す「感情タイプ」に属する。“想”と“愿意”もモダリティ表現であり、「評価・判断タイプ」に属し、主体の意志を表す。“想”は話し手が意志を所持していることを描写することに重点を置く「描写性意志」の特徴を持つため、話し手の感情を表す表現、つまり“太”、“好”の後続成分となることができるが、“愿意”は話し手が意志を所持し、それを自ら選びとることに重点を置く「選

択性意志」の特徴を持つため、“太”、“好”が用いられるような話し手の感情表現には適さない。4章では以上の考察を通して、モダリティ副詞“太”、“好”の「感情タイプ」としての特徴が助動詞“想”、“愿意”に異なった共起状況を生み出すということが明らかになった。さらに今回の分析から“想”の方がより話し手の感情表現に近づくことができる意志表現であることがわかった。

以上、本論文の各章の内容をまとめた。本論文は副詞と焦点、アスペクト、モダリティの共起制限を分析してきた。以上の分析から副詞は自身が焦点、アスペクト、モダリティを表すため、これらの文法成分と共起制限を引き起こすことがわかる。本論文の分析や序章で挙げた共起制限の先行研究からわかるように副詞は共起制限の分析において重要な位置を占める。それは副詞が連用修飾語であるため、修飾される語との意味の整合性が問題になること、また、虚詞という文法的な機能を担う側面もあるため、その他の文法的な機能を担う成分との機能上の整合性が問題になることが一つの原因である。

なお、本論文では、意味指向副詞、アスペクト副詞、モダリティ副詞を取り上げたが、現代中国語において副詞は意味や機能において多様性を持つことはよく指摘されている。以下の例を参照されたい。

(12)a. 漂亮 得 很。

きれい DE とても

[とてもきれいだ。]

b.*漂亮 得 非常。

きれい DE 非常に

(13)a. 这样的 老夫妻 无疑 属于 独立的 居民户。 (北大)

このような 老夫婦 疑いない 属する 独立した 住民戸籍

[このような老夫婦は間違いなく独立した住民戸籍に属することになる。]

b. 他 老 是 这样 叮嘱 我。

彼 いつも SHI このように 頼む 私

[彼はいつもこのように私に頼む。]

上記(12)は“得”の後ろが補語として機能するものである。“很”と“非常”は同じく程度を表す副詞であるが、“很”はaのように補語として用いられることができるが、“非常”はbにも

あるように補語として用いることができない。また(13)a では“老”が形容詞として機能するが、b では副詞として機能している。“老”のようにすべての副詞が副詞と形容詞の性質を持つわけではない。以上からわかるように副詞として分類された語は連用修飾語としての機能、虚詞であるという点で共通した性質を持つが、それ以外の性質は各々が異なっている。今後はこの多様性に着目し、副詞が文法構造以外にもその他の品詞や文機能にどのような共起制限を引き起こすのか探っていきたい。

出典用例

- ・北大：北京大学中国语言学研究中心现代汉语语料库检索系统
 - ・日中：北京日本語研究センター 日中対訳コーパス
 - ・亦凡图书馆 (<http://www.shuku.net/novels/cnovel.html>) より
- 《赴》：《赴日研修日记》 《异》：《异闻录——每晚一个骇故事》 《莫》：《莫泊桑作品选》
《花》：《花嫁仇》 《花花》：《花花江湖》 《世》：《世纪之痛》 《罪》：《罪与罚》
- 《邪》：《邪恶》 《吻》：《吻城》 《笑》：《笑姻缘》 《非》：《非诚勿扰》
《暗》：《暗欲》 《玉》：《玉观音》 《佛》：《佛魔叛道》 《浪》：《浪漫的人是不该相遇的》
《你》：《你怎么也想不到》 《三》：《三生三世之背叛》 《阳》：《阳光之约》
《梁》：《梁实秋文选 喝茶》 《常》：《常荫楼书话》 《沉》：《沉思的黑夜》
《卿》：《卿卿俏宝贝》 《文》：《文学批评应推动作家的艺术创作》 《国》：《国共和谈演义》
《绿》：《绿野仙踪》 《被》：《被禁止的基督》 《北》：《北京故事》 《荷》：《荷影剑魂》
《苏》：《苏童文选》 《暖》：《暖床宝贝》 《福》：《福尔摩斯探案全集之四签名》
《十》：《十八岁出门远行》

特に明記されていないものは筆者作例。

参考文献

- 陈伟琳(1998)〈限定副词“只”、“就”语义指向辨析〉 信阳师范学院学报 4期 78-81
- 陈永嫫(2010)〈试论现代汉语副词的语义指向〉 西北师范大学 硕士论文 1-63
- 董秀芳(2003)〈无标记焦点和有标记焦点的确定原则〉 汉语学习 1期 10-16
- 龚千炎(1995) 《汉语的时相 时制 时态》 商务印书馆
- 郝雷红(2003) 〈现代汉语否定副词研究〉 首都师范大学 硕士论文 1-35
- 贺阳(1992) 《试论汉语书面语的语气系统》 中国人民大学学报 59-66
- 候学超(1998) 《现在汉语虚词词典》 商务印书馆
- 李宝伦, 番海华, 徐烈炯(2003) 〈对焦点敏感的结构及焦点的语义解释(上)〉 当代语文学 第1期
- 吕叔湘(2002) 《20世纪现代汉语语法八大家 吕叔湘选集》 东北师范大学出版社 1-11
- 木村英樹(2012) 『中国語文法の意味とかたち』 白帝社
- 近藤泰弘(1991) 「ムード」 『講座日本語と日本語教育 4 日本語の文法・文体(上)』 明治書院

- 李晋霞(2005)〈好的语法化和主观性〉世界汉语教学 第1期 44-49
- 吕叔湘(1944)《中国语法要略》商务印书馆
- 吕叔湘(1980)《现代汉语八百词增订本》商务印书馆
- 吕叔湘(1985)〈疑问·否定·肯定〉中国语文 第4期 241-250
- 吕叔湘(1999)《现代汉语八百词 增订版》商务印书馆
- 刘丹青、徐烈炯(1998)〈焦点与背景、话题及汉语“连”字句〉中国语文 第4期 234-252
- 劉月華(1987)〈用“吗”的是非问句与正反问句用法比较〉《句型和动词》117-138 北京: 语文出版社
- 陆俭明, 马真(1999)《现代汉语虚词散论》语文出版社
- 陆俭明(1984)〈关于现代汉语里的疑问语气词〉中国语文 第5期 170-175
- 鲁晓琨(1999)〈现代汉语意愿助动词的意义对比〉第六届国际汉语教学讨论会论文集 528-543
- 益岡隆志(1991)『モダリティの文法』くろしお出版
- 益岡隆志(2002)「定表現と非定表現と不定表現」国語論究10 現代日本語の文法研究 明治書院 68-92
- 望月八十吉(1994)『現代中国語の諸問題』好文出版
- 马真(2003)〈“已经”和“曾经”的语法意义〉语言科学 第2卷第1期:23-28
- 大西智之(1998)「将然相を表す“要～了”について」帝塚山大学教養学部紀要 第55:1-9
- 祁峰(2012)〈现代汉语焦点研究〉复旦大学 博士论文 1-202
- 邵敬敏(1996)《现代汉语疑问句研究》华东师范大学出版社
- 沈开木(1996)〈论“语义指向”〉华南师范大学学报 第1期 67-74
- 下地早智子(2011)「視点の違いから見るアスペクト形式選択の日中差: 非限界動作動詞の場合」日中言語研究と日本語教育 4, 23-32,
- 史金生(2003)〈语气副词的范围、类别和共现顺序〉中国语文 17-31
- 孫樹喬(2014)「意志表現をめぐる日中対照研究」神戸市外国語大学 博士論文 1-167
- 唐小薇, 李小军(2007)〈也谈语气和语气词——兼与孟子敏先生商榷〉成都大学学报 126-128
- 寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味』第2巻 くろしお出版
- 王力(1984)《王力文集 第一卷》山东教育出版社
- 王力(1951)《中国語法理論》商務印書館
- 徐杰(1981)〈“都”类副词的总括对象及隐现、位序〉国外语言学 第1期 10-15
- 徐烈炯(2001)〈焦点的不同概念及其在汉语中的表现形式〉現代中国語研究 第3期 10-22
- 杨鲜灵(2002)〈疑问焦点与否定焦点〉运城高等专科学校学报 第2期 53-54
- 尹洪波(2008)〈现代汉语疑问句焦点研究〉江汉大学学报 第1期 92-96
- 张伯江, 方梅(1994)《汉语功能语法研究》江西教育出版社

- 张亚军(2002)《副词与限定描状》安徽教育出版社
- 张言军(2008)〈时间副词与动词重叠式的组合考察〉乐山师范学院学报 6期 36-39
- 张全生(2009)〈现代汉语焦点结构研究〉南开大学 博士论文 1-171
- 张谊生(2000)《中国汉语副词研究》学林出版社
- 张谊生(2004)《现在汉语副词探索》学林出版社
- 朱德熙(1982)《语法讲义》商务印书馆
- 张万禾, 石毓智(2008)〈现代汉语的将来时范畴〉汉语学习第5期 28-34
- 周守晋(2004)〈“主观量”的语义信息特征与“就”、“才”的语义〉北京大学学报第44卷第3期 :121-131
- 朱冠明(2005)〈情态与汉语情态动词〉山东外语教学 17-21